

## 学生の確保の見通し等を記載した書類（資料）

### 目 次

資料1	改組実績のある人文社会科学系研究科とのST比の比較について	2
資料2	現行3研究科における過去5年間（平成29年度～令和3年度）の入学志願状況等	3
資料3	22歳人口推計	8
資料4	人間発達文化学類3年生対象アンケート調査	9
資料5	行政政策学類3年生対象アンケート調査	10
資料6	経済経営学類3年生対象アンケート調査	11
資料7	新構想大学院で導入予定の教育プログラムに対する学生の関心	12
資料8	自治体等職員へのアンケート調査【地域政策科学専攻・経済経営専攻】	17
資料9	社会人個人へのアンケート調査【経済経営専攻】	21
資料10	税理士事務所へのアンケート調査【経済経営専攻】	24
資料11	企業・団体等へのアンケート調査	28
資料12	現行3研究科における過去5年間（平成28年度～令和2年度）の就職実績	43
資料13	（参考）各種アンケート調査時に示した設置構想資料	46

## 改組実績のある人文社会科学系研究科とのST比の比較について

大学名・研究科名・専攻名		学生数		教員数	ST比		備考
		入学定員	収容定員		入学定員 ベース	収容定員 ベース	
		A	B	C	D=A/C	E=B/C	
(現行) 福島大学 大学院	人間発達文化研究科	24	48	52	0.46	0.92	
	地域文化創造専攻(M)	17	34				
	学校臨床心理専攻(M)	7	14				
	地域政策科学研究科	20	40	34	0.59	1.18	
	地域政策科学専攻(M)	20	40				
	経済学研究科	22	44	32	0.69	1.38	
	経済学専攻(M)	10	20				
	経営学専攻(M)	12	24				
福島大学大学院計		66	132	118	0.56	1.12	
茨城大学 大学院	人文社会科学系研究科	31	62	77	0.40	0.81	
	人文科学専攻(M)	17	34				令和3年度開設
	社会科学専攻(M)	14	28				
信州大学 大学院	総合人文社会科学系研究科	36	72	80	0.45	0.90	
	総合人文社会科学専攻(M)	36	72				令和2年度開設
島根大学 大学院	人間社会科学系研究科	25	50	75	0.33	0.67	
	社会創成専攻(M)	15	30				令和3年度開設
	臨床心理学専攻(M)	10	20				
茨城大学大学院・信州大学大学院・ 島根大学大学院計		92	184	232	0.40	0.79	

出所

入学定員・収容定員:各研究科の基本計画書

教員数:「大学ポートレート」で表示される各研究科の教員数(2021年5月1日現在)

(再編後) 福島大学 大学院	地域デザイン科学研究科	42	84	118	0.36	0.71	
	人間文化専攻(M)	20	40	52			
	地域政策科学専攻(M)	8	16	34			
	経済経営専攻(M)	14	28	32			

(現行)人間発達文化研究科(地域文化創造専攻及び学校臨床心理専攻)、  
(現行)地域政策科学研究科、(現行)経済学研究科  
過去5年間の入学志願状況等

## 1. 過去5年間(平成29年度～令和3年度)の平均志願者及び入学者数

(単位:名)

年度	研究科・専攻	志願者	入学者					備考
				内部 進学者	外部 進学者	外国人 留学生	社会人	
平成29 年度	人間発達文化研究科	56	35	21	6	0	8	
	地域文化創造専攻	24	21	18	1	0	2	
	学校臨床心理専攻	32	14	3	5	0	6	
	地域政策科学研究科	14	10	4	0	0	6	
	地域政策科学専攻	14	10	4	0	0	6	
	経済学研究科	17	14	3	1	1	9	
	経済学専攻	9	7	2	0	1	4	
経営学専攻	8	7	1	1	0	5		
平成30 年度	人間発達文化研究科	43	29	20	3	1	5	
	地域文化創造専攻	24	20	17	0	1	2	
	学校臨床心理専攻	19	9	3	3	0	3	
	地域政策科学研究科	10	8	1	0	2	5	
	地域政策科学専攻	10	8	1	0	2	5	
	経済学研究科	12	7	0	0	1	6	
	経済学専攻	6	5	0	0	1	4	
経営学専攻	6	2	0	0	0	2		
平成31 令和元 年度	人間発達文化研究科	37	18	10	7	0	1	
	地域文化創造専攻	14	10	9	1	0	0	
	学校臨床心理専攻	23	8	1	6	0	1	
	地域政策科学研究科	17	15	9	0	2	4	
	地域政策科学専攻	17	15	9	0	2	4	
	経済学研究科	21	13	1	1	0	11	
	経済学専攻	8	6	1	0	0	5	
経営学専攻	13	7	0	1	0	6		
令和2 年度	人間発達文化研究科	51	27	15	5	3	4	
	地域文化創造専攻	22	18	12	1	3	2	
	学校臨床心理専攻	29	9	3	4	0	2	
	地域政策科学研究科	7	6	1	1	2	2	
	地域政策科学専攻	7	6	1	1	2	2	
	経済学研究科	27	19	5	0	4	10	
	経済学専攻	18	12	5	0	3	4	
経営学専攻	9	7	0	0	1	6		
令和3 年度	人間発達文化研究科	35	23	15	3	2	3	
	地域文化創造専攻	17	17	13	1	2	1	
	学校臨床心理専攻	18	6	2	2	0	2	
	地域政策科学研究科	8	7	3	0	1	3	
	地域政策科学専攻	8	7	3	0	1	3	
	経済学研究科	16	12	1	1	3	7	
	経済学専攻	7	5	1	0	3	1	
経営学専攻	9	7	0	1	0	6		
過去 5年間 平均	人間発達文化研究科	44.4	26.4	16.2	4.8	1.2	4.2	
	地域文化創造専攻	20.2	17.2	13.8	0.8	1.2	1.4	
	学校臨床心理専攻	24.2	9.2	2.4	4.0	0.0	2.8	
	地域政策科学研究科	11.2	9.2	3.6	0.2	1.4	4.0	
	地域政策科学専攻	11.2	9.2	3.6	0.2	1.4	4.0	
	経済学研究科	18.6	13.0	2.0	0.6	1.8	8.6	
	経済学専攻	9.6	7.0	1.8	0.0	1.6	3.6	
経営学専攻	9.0	6.0	0.2	0.6	0.2	5.0		

2. 過去5年間(平成29年度～令和3年度)の入試区分別平均入学者数

(単位:名)

年度	研究科・専攻	入学者					備考
			一般選抜	特別選抜	学類生	現職教員	
平成29年度	人間発達文化研究科	35	17	18	14	4	
	地域文化創造専攻	21	5	16	14	2	
	学校臨床心理専攻	14	12	2	—	2	
平成30年度	人間発達文化研究科	29	11	18	14	4	
	地域文化創造専攻	20	5	15	14	1	
	学校臨床心理専攻	9	6	3	—	3	
平成31年度 令和元年度	人間発達文化研究科	18	9	9	9	0	
	地域文化創造専攻	10	1	9	9	0	
	学校臨床心理専攻	8	8	0	—	—	
令和2年度	人間発達文化研究科	27	13	14	12	2	
	地域文化創造専攻	18	4	14	12	2	
	学校臨床心理専攻	9	9	0	—	—	
令和3年度	人間発達文化研究科	23	11	12	12	0	
	地域文化創造専攻	17	5	12	12	0	
	学校臨床心理専攻	6	6	0	—	—	
過去5年間平均	人間発達文化研究科	26.4	12.2	14.2	12.2	2.0	
	地域文化創造専攻	17.2	4.0	13.2	12.2	1.0	
	学校臨床心理専攻	9.2	8.2	1.0	—	1.0	



3. 過去5年間(平成29年度～令和3年度)の入試日程・入試区分別入学者数

人間発達文化研究科入試日程・入試区分別入学者数調(教職実践専攻を除く)

(単位:名)

年度	区分	志願者数	受験者数	合格者数	入学手続完了者数	備考
平成29年度	第1次募集	46	43	28	27	
	一般入試	32	30	15	14	
	学類所属生特別入試	10	9	9	9	
	現職教員特別入試	4	4	4	4	
	第2次募集	10	10	8	8	
	一般入試	5	5	3	3	
	学類所属生特別入試	5	5	5	5	
	合計	56	53	36	35	
平成30年度	第1次募集	36	34	26	26	
	一般入試	19	18	11	11	
	学類所属生特別入試	12	11	11	11	
	現職教員特別入試	5	5	4	4	
	第2次募集	7	7	4	4	
	一般入試	4	4	1	1	
	学類所属生特別入試	3	3	3	3	
	合計	43	41	30	30	入学者29
平成31年度	第1次募集	29	27	16	16	
	一般入試	21	19	8	8	
	学類所属生特別入試	8	8	8	8	
	現職教員特別入試					
	第2次募集以降	8	8	4	3	
	一般入試	7	7	3	2	
	学類所属生特別入試	1	1	1	1	
	合計	37	35	20	19	入学者18
令和2年度	第1次募集	37	34	21	20	
	一般入試	25	23	10	9	
	学類所属生特別入試	10	9	9	9	
	現職教員特別入試	2	2	2	2	
	第2次募集	14	13	8	7	
	一般入試	11	10	5	4	
	学類所属生特別入試	3	3	3	3	
	合計	51	47	29	27	
令和3年度	第1次募集	25	24	17	17	
	一般入試	15	14	7	7	
	学類所属生特別入試	10	10	10	10	
	現職教員特別入試					
	第2次募集以降	10	8	7	7	
	一般入試	8	6	5	5	
	学類所属生特別入試	2	2	2	2	
	合計	35	32	24	24	入学者23
過去5年間平均	第1次募集	34.6	32.4	21.6	21.2	
	一般入試	22.4	20.8	10.2	9.8	
	学類所属生特別入試	10.0	9.4	9.4	9.4	
	現職教員特別入試	2.2	2.2	2.0	2.0	
	第2次募集以降	9.8	9.2	6.2	5.8	
	一般入試	7.0	6.4	3.4	3.0	
	学類所属生特別入試	2.8	2.8	2.8	2.8	
	合計	44.4	41.6	27.8	27.0	入学者26.4
(参考) 令和4年度	第1次募集	32	30	20	17	
	一般入試	25	23	13	10	
	学類所属生特別入試	5	5	5	5	
	現職教員特別入試	2	2	2	2	
	第2次募集以降	7	7	6	6	
	一般入試	5	5	4	4	
	学類所属生特別入試	2	2	2	2	
	合計	39	37	26	23	

地域政策科学研究科入試日程・入試区分別入学者数調

(単位:名)

年度	区分	志願者数	受験者数	合格者数	入学手続完了者数	備考
平成29年度	前期、後期	12	12	9	9	
	一般	6	6	4	4	
	社会人特別	2	2	2	2	
	社会人特別推薦	3	3	3	3	
	外国人留学生特別	1	1			
	後期2次	2	2	1	1	
	一般					
	社会人特別					
	社会人特別推薦	1	1	1	1	
	外国人留学生特別	1	1			
合計		14	14	10	10	
平成30年度	前期、後期	10	9	8	8	
	一般	2	1	1	1	
	社会人特別	6	6	5	5	
	社会人特別推薦					
	外国人留学生特別	2	2	2	2	
	後期2次	0	0	0	0	
	一般					
	社会人特別					
	社会人特別推薦					
	外国人留学生特別					
合計		10	9	8	8	
平成31年度	前期、後期	17	17	16	15	
	一般	10	10	10	9	
	社会人特別	1	1	1	1	
	社会人特別推薦	3	3	3	3	
	外国人留学生特別	3	3	2	2	
	後期2次	0	0	0	0	
	一般					
	社会人特別					
	社会人特別推薦					
	外国人留学生特別					
合計		17	17	16	15	
令和2年度	前期、後期	7	7	6	6	
	一般	3	3	2	2	
	社会人特別					
	社会人特別推薦	2	2	2	2	
	外国人留学生特別	2	2	2	2	
	後期2次	0	0	0	0	
	一般					
	社会人特別					
	社会人特別推薦					
	外国人留学生特別					
合計		7	7	6	6	
令和3年度	前期、後期	7	7	7	7	
	一般	3	3	3	3	
	社会人特別	2	2	2	2	
	社会人特別推薦	1	1	1	1	
	外国人留学生特別	1	1	1	1	
	後期2次	1	1	1	0	
	一般					
	社会人特別					
	社会人特別推薦					
	外国人留学生特別	1	1	1		
合計		8	8	8	7	
過去5年間平均	前期、後期	10.6	10.4	9.2	9.0	
	一般	4.8	4.6	4.0	3.8	
	社会人特別	2.2	2.2	2.0	2.0	
	社会人特別推薦	1.8	1.8	1.8	1.8	
	外国人留学生特別	1.8	1.8	1.4	1.4	
	後期2次	0.6	0.6	0.4	0.2	
	一般	0.0	0.0	0.0	0.0	
	社会人特別	0.0	0.0	0.0	0.0	
	社会人特別推薦	0.2	0.2	0.2	0.2	
	外国人留学生特別	0.4	0.4	0.2	0.0	
合計		11.2	11.0	9.6	9.2	
(参考) 令和4年度	前期、後期	7	7	7	7	
	一般	4	4	4	4	
	社会人特別	3	3	3	3	
	社会人特別推薦					
	外国人留学生特別					
	後期2次	1	1	1	1	
	一般	1	1	1	1	
	社会人特別					
	社会人特別推薦					
	外国人留学生特別					
合計		8	8	8	8	

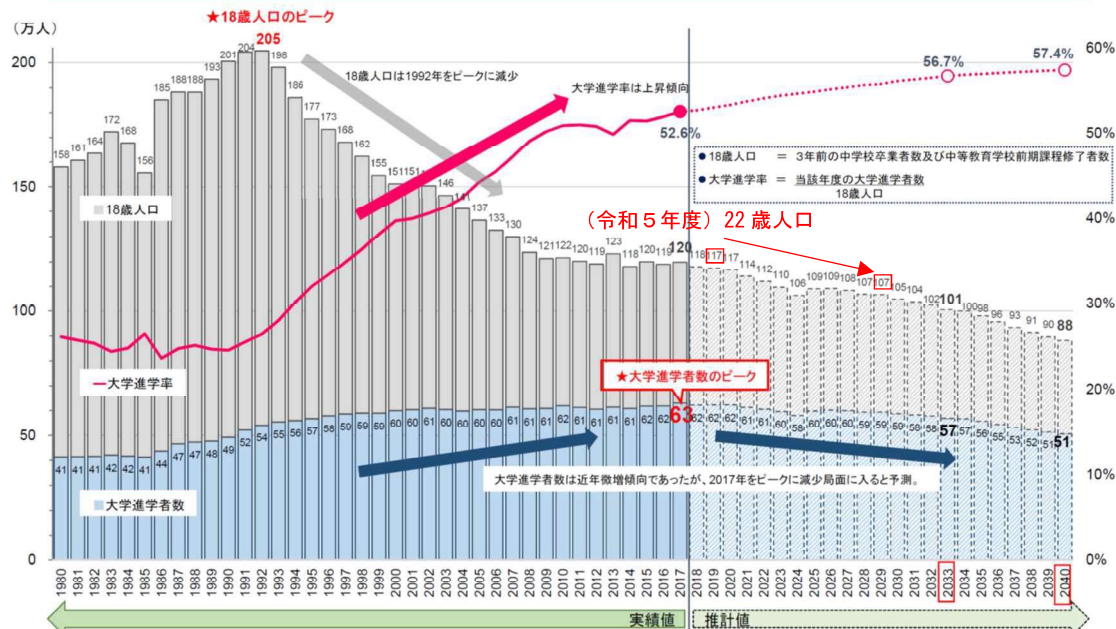
経済学研究科入試日程・入試区分別入学者数調

(単位:名)

年度	区分	志願者数	受験者数	合格者数	入学手続完了者数	備考
平成29年度	第Ⅰ期、第Ⅱ期	17	15	14	14	
	一般	3	1	1	1	
	専攻所属生対象特別	2	2	2	2	
	社会人特別	11	11	10	10	
	教員対象特別					
	修士再履修特別	1	1	1	1	
平成30年度	第Ⅰ期、第Ⅱ期	12	11	8	7	
	一般	4	4	1	1	
	専攻所属生対象特別					
	社会人特別	7	6	6	5	
	教員対象特別					
	修士再履修特別	1	1	1	1	
平成31年度	第Ⅰ期、第Ⅱ期	13	12	8	7	
	一般	7	6	2	2	
	専攻所属生対象特別					
	社会人特別	6	6	6	5	
	教員対象特別					
	修士再履修特別					
	第Ⅱ期追加募集	8	8	6	6	
	一般	1	1			
	専攻所属生対象特別					
	社会人特別	5	5	4	4	
	修士再履修特別	2	2	2	2	
合計		21	20	14	13	
令和2年度	第Ⅰ期、第Ⅱ期	18	16	13	12	
	一般	9	7	4	4	
	専攻所属生対象特別	2	2	2	2	
	社会人特別	6	6	6	5	
	教員対象特別					
	修士再履修特別	1	1	1	1	
	第Ⅱ期追加募集	9	8	7	7	
	一般	3	2	1	1	
	専攻所属生対象特別	1	1	1	1	
	社会人特別	5	5	5	5	
	修士再履修特別					
合計		27	24	20	19	
令和3年度	第Ⅰ期、第Ⅱ期	14	13	10	10	
	一般	6	5	3	3	
	専攻所属生対象特別					
	社会人特別	5	5	5	5	
	教員対象特別					
	修士再履修特別	3	3	2	2	
	第Ⅱ期追加募集	2	2	2	2	
	一般	1	1	1	1	
	専攻所属生対象特別					
	社会人特別	1	1	1	1	
	修士再履修特別					
合計		16	15	12	12	
過去5年間平均	第Ⅰ期、第Ⅱ期	14.8	13.4	10.6	10.0	
	一般	5.8	4.6	2.2	2.2	
	専攻所属生対象特別	0.8	0.8	0.8	0.8	
	社会人特別	7.0	6.8	6.6	6.0	
	教員対象特別	0.0	0.0	0.0	0.0	
	修士再履修特別	1.2	1.2	1.0	1.0	
	第Ⅱ期追加募集	3.8	3.6	3.0	3.0	
	一般	1.0	0.8	0.4	0.4	
	専攻所属生対象特別	0.2	0.2	0.2	0.2	
	社会人特別	2.2	2.2	2.0	2.0	
	修士再履修特別	0.4	0.4	0.4	0.4	
合計		18.6	17.0	13.6	13.0	
(参考) 令和4年度	第Ⅰ期、第Ⅱ期	11	11	9	9	
	一般	5	5	4	4	
	専攻所属生対象特別	4	4	4	4	
	社会人特別	2	2	1	1	
	教員対象特別					
	修士再履修特別					
	第Ⅱ期追加募集	10	9	9	9	
	一般	2	1	1	1	
	専攻所属生対象特別					
	社会人特別	7	7	7	7	
	修士再履修特別	1	1	1	1	
合計		21	20	18	18	

22歳人口推計（※18歳人口推計を基に作成）

18歳人口が減少し続ける中でも、大学進学率は上昇し、大学進学者数も増加傾向にあったが、2018年以降は18歳人口の減少に伴い、大学進学率が上昇しても大学進学者数は減少局面に入ると予測される。



【出典】○18歳人口：①1980年～2017年…文部科学省「学校基本統計」、②2018年～2029年…文部科学省「学校基本統計」を元に推計、③2030～2034年…厚生労働省「人口動態統計」の出生数に生存率を乗じて推計、④2035～2040年については国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）（出生中位・死亡中位）」を元に作成（2034年の都道府県比率で案分）  
○大学進学者数及び大学進学率：①1980～2017年…文部科学省「学校基本統計」、②2018年～2040年…文部科学省による推計

○出所：2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）（中教審第211号）参考資料集P.45

（補足説明）

■地域デザイン科学研究科設置年度である令和5年度時点での22歳人口

→ 令和元年度の18歳が該当することから、令和元年度と令和11年度の人口推計を比較

年度	令和元年度 (2019年度)	令和11年度 (2029年度)	増△減	増減率
人口推計	117万人	107万人	△10万人	△8.5%

福島大学大学院（修士課程）再編に関するアンケート調査結果（概要）  
【人間発達文化学類】（学類3年生向け）

## 1. 調査実施概要

## (1) 調査目的

令和5年4月に再編予定の福島大学大学院（人間文化専攻）に対する在学生の進学ニーズを把握することを目的とする。

## (2) 調査対象

令和5年度入学者となり得る学類3年生のうち、再編後のコースへ進学が主に見込まれる分野に所属する学生を対象とした。

## (3) 調査方法

福島大学大学院の再編（改組及び新設）の内容を説明する資料及び調査票を上記調査対象に配付し回答を回収した。

## (4) 調査時期

令和3年11月25日（木）～12月17日（金）

## (5) 回答数（回答率）

132名（約68.0%）対象者194名

## 2. 調査結果概要

（単位：名）

調査項目及び回答区分	現在の所属					合計	備考	
	人文科学コース		人文科学コース	特別支援・生活科学コース	芸術・表現コース			心理学・幼児教育コース
	国語学分野	英語学分野	社会科学分野	生活科学分野	スポーツ健康科学コース			
問6 学類卒業後の進路	5		0		10	3	18	
1. 進学	4		0		3	3	10	
2. どちらかと言えば進学	1		0		7	0	8	
問7 進学先として福島大学大学院を	5		0		10	3	18	
1. 考えている	2		0		4	0	6	
2. どちらかと言えば考えている	0		0		1	3	4	
3. どちらかと言えば考えていない	0		0		2	0	2	
4. 考えていない	3		0		3	0	6	
問8 進学を希望する専攻	2		0		5	3	10	
1. 人間文化専攻	2		0		3	3	8	
問6、問7ともに「1」と回答	2		0		2	0	4	
問6、問7のいずれかが「2」と回答	0		0		1	3	4	注
4. 教職高度化専攻	0		0		2	0	2	

注. 人間文化専攻への進学を比較的前向きに考えていると推測される学生は表の4名に加え、資料5の地域政策学類3年生へのアンケート調査でも1名が見受けられた。

福島大学大学院（修士課程）再編に関するアンケート調査結果（概要）  
【行政政策学類】（学類3年生向け）

## 1. 調査実施概要

## (1) 調査目的

令和5年4月に再編予定の福島大学大学院（地域政策科学専攻）に対する在学生の進学ニーズを把握することを目的とする。

## (2) 調査対象

令和5年度入学者となり得る学類3年生を対象とした。

## (3) 調査方法

福島大学大学院の再編（改組及び新設）の内容を説明する資料及び調査票を上記調査対象に配付し回答を回収した。

## (4) 調査時期

令和3年11月25日（木）～12月2日（木）

## (5) 回答数（回答率）

186名（約81.2%）対象者229名

## 2. 調査結果概要

（単位：名）

調査項目及び回答区分	現在の所属			合計	備考
	地域政策と法コース	地域社会と文化コース	夜間主		
問6 学類卒業後の進路	5	1	0	6	
1. 進学	2	0	0	2	
2. どちらかと言えば進学	3	1	0	4	
問7 進学先として福島大学大学院を	5	1	0	6	
1. 考えている	0	0	0	0	
2. どちらかと言えば考えている	3	1	0	4	
3. どちらかと言えば考えていない	0	0	0	0	
4. 考えていない	2	0	0	2	
問8 進学を希望する専攻	3	1	0	4	
1. 人間文化専攻	0	1	0	1	
2. 地域政策科学専攻	3	0	0	3	
問6、問7ともに「1」と回答	0	0	0	0	
問6、問7のいずれかが「2」と回答	3	0	0	3	

福島大学大学院（修士課程）再編に関するアンケート調査結果（概要）  
【経済経営学類】（学類3年生向け）

## 1. 調査実施概要

## (1) 調査目的

令和5年4月に再編予定の福島大学大学院（経済経営専攻）に対する在学生の進学ニーズを把握することを目的とする。

## (2) 調査対象

令和5年度入学者となり得る学類3年生を対象とした。

## (3) 調査方法

福島大学大学院の再編（改組及び新設）の内容を説明する資料及び調査票を上記調査対象に配付し回答を回収した。

## (4) 調査時期

令和3年11月25日（木）～12月2日（木）

## (5) 回答数（回答率）

119名（約53.9%）対象者221名

## 2. 調査結果概要

（単位：名）

調査項目及び回答区分	現在の所属		合計	備考
	経済学専攻	経営学専攻		
問6 学類卒業後の進路	4	3	7	
1. 進学	2	3	5	
2. どちらかと言えば進学	2	0	2	
問7 進学先として福島大学大学院を	4	3	7	
1. 考えている	3	2	5	
2. どちらかと言えば考えている	0	0	0	
3. どちらかと言えば考えていない	0	0	0	
4. 考えていない	1	1	2	
問8 進学を希望する専攻	3	2	5	
3. 経済経営専攻	3	2	5	
問6、問7ともに「1」と回答	1	2	3	
問6、問7のいずれかが「2」と回答	2	0	2	

新構想大学院で導入予定の教育プログラムに対する学生の関心  
(各学類3年生を対象としたアンケート調査結果)

## 1. 質問項目

問4 新しく導入する教育プログラムの中で、あなたが関心を持ったプログラムの番号を最大3つ選んでください。特にない場合は「9. 該当なし」を選んでください。

## 2. 回答結果 ※回答数はアンケート回答者全員（進学意向の有無によらない）

## ▼人間発達文化学類（回答数132名）

回答選択肢	選択数	割合
1. 履修パターンの選択	59	44.7%
2. 大学院基盤科目（イノベーション・リテラシー）	14	10.6%
3. 研究科／専攻基盤科目	22	16.7%
4. イノベーション科目群	20	15.2%
5. プロジェクト研究（学生組織型）	31	23.5%
6. プロジェクト研究（教員組織型）	19	14.4%
7. 課題対応型プログラム（分野横断型）	20	15.2%
8. 課題対応型プログラム（専門高度化）	22	16.7%
9. 該当なし	22	16.7%

## ▼行政政策学類（回答数186名）

回答選択肢	選択数	割合
1. 履修パターンの選択	56	30.1%
2. 大学院基盤科目（イノベーション・リテラシー）	34	18.3%
3. 研究科／専攻基盤科目	24	12.9%
4. イノベーション科目群	37	19.9%
5. プロジェクト研究（学生組織型）	35	18.8%
6. プロジェクト研究（教員組織型）	8	4.3%
7. 課題対応型プログラム（分野横断型）	57	30.6%
8. 課題対応型プログラム（専門高度化）	23	12.4%
9. 該当なし	41	22.0%

## ▼経済経営学類（回答数119名）

回答選択肢	選択数	割合
1. 履修パターンの選択	30	16.1%
2. 大学院基盤科目（イノベーション・リテラシー）	16	8.6%
3. 研究科／専攻基盤科目	16	8.6%
4. イノベーション科目群	26	14.0%
5. プロジェクト研究（学生組織型）	35	18.8%
6. プロジェクト研究（教員組織型）	12	6.5%
7. 課題対応型プログラム（分野横断型）	29	15.6%
8. 課題対応型プログラム（専門高度化）	25	13.4%
9. 該当なし	30	16.1%



令和3年11月25日

## 福島大学大学院「地域デザイン科学研究科」設置に関するアンケート

福島大学地域デザイン科学研究科設置準備室

### (アンケートの趣旨)

福島大学では、震災・原発事故から10年となる令和2年10月に「福島大学ミッション2030」を策定し、「地域と共に21世紀的課題に立ち向かう大学」を基本理念として決めました。

そして、21世紀的課題の先進地域となった福島県において、10年後、20年後を見据えた、少子高齢化時代の地方の「新しい社会づくり」に取り組む教育研究機関として再構築するため、**令和5年度の大学院再編**を目指して検討を進めてきたところです。

つきましては、より良い大学院に向けた検討の参考とするため、学生の皆様に**アンケートを実施**させていただきますのでご協力をお願いいたします。

### (アンケートの取扱い)

アンケートは調査の目的以外に使われることはなく、統計的な処理を施しますので、**個人が特定されることはありません。**

### (アンケートを回答するに当たって)

添付の大学院再編構想資料をご覧いただいた上で**回答**をお願いいたします。なお、大学院の再編構想は、検討段階の内容であり、今後変更となる場合がありますのでご了承ください。

### (回答の期限)

12月2日(金) 17:00まで

### 【アンケートに関するお問い合わせ先】

福島大学地域デザイン科学研究科設置準備室  
(経済経営学類内)

TEL : 024-548-8353

E-Mail : [keizai@adb.fukushima-u.ac.jp](mailto:keizai@adb.fukushima-u.ac.jp)

問1 あなたの所属学類を教えてください。

1. 人間発達文化学類
2. 行政政策学類
3. 行政政策学類（夜間主）
4. 経済経営学類

問2 あなたの学年を教えてください。

1. 1年
2. 2年
3. 3年

問3 新しくなる福島大学の大学院についてお伺いします。資料をお読みいただき、関心を持った専攻の番号を全て選んでください（複数回答可）。

1. 文化共創専攻（地域デザイン科学研究科）
2. 地域政策科学専攻（地域デザイン科学研究科）
3. 経済経営専攻（地域デザイン科学研究科）
4. 教職高度化専攻（教職実践研究科（教職大学院））
5. 共生システム理工学専攻（共生システム理工学研究科）
6. 環境放射能学専攻（共生システム理工学研究科）
7. 食農科学専攻（食農科学研究科）
8. 該当なし（いずれでもない場合）

問4 新しく導入する教育プログラムの中で、あなたに関心を持ったプログラムの番号を最大3つ選んでください。特にない場合は「9. 該当なし」を選んでください。

1. 履修パターンの選択
2. 大学院基盤科目（イノベーション・リテラシー）
3. 研究科／専攻基盤科目
4. イノベーション科目群
5. プロジェクト研究（学生組織型）
6. プロジェクト研究（教員組織型）
7. 課題対応型プログラム（分野横断型）
8. 課題対応型プログラム（専門高度化）
9. 該当なし

問5 新しく導入する教育プログラムの中で、関心を持てなかった、あるいは自分なら履修しないと思うプログラムの番号を最大3つ選んでください。特にない場合は「9. 該当なし」を選んでください。

1. 履修パターンの選択
2. 大学院基盤科目（イノベーション・リテラシー）
3. 研究科／専攻基盤科目
4. イノベーション科目群
5. プロジェクト研究（学生組織型）
6. プロジェクト研究（教員組織型）
7. 課題対応型プログラム（分野横断型）
8. 課題対応型プログラム（専門高度化）
9. 該当なし

問6 あなたは学類卒業後の進路として、大学院への進学と就職のどちらを予定していますか。

1. 進学 (問7へ)
2. どちらかと言えば進学 (問7へ)
3. どちらかと言えば就職 (問10へ)
4. 就職 (問10へ)
5. どちらでもない (問10へ)

問7 問6で「1.」又は「2.」と回答した方にお伺いします。進学先として福島大学大学院を考えていますか。

1. 考えている (問8、問9へ)
2. どちらかと言えば考えている (問8、問9へ)
3. どちらかと言えば考えていない (最後の設問へ)
4. 考えていない (最後の設問へ)

問8 問7で「1.」又は「2.」と回答した方にお伺いします。進学を希望する専攻について教えてください。

1. 文化共創専攻
2. 地域政策科学専攻
3. 経済経営専攻
4. 教職高度化専攻
5. 共生システム理工学専攻
6. 環境放射能学専攻
7. 食農科学専攻

問9 問7で「1.」又は「2.」と回答した方にお伺いします。進学後の大学院での学びについて、どの履修パターンを選択しますか。最も関心のある番号を選んでください。

1. 学際性重視型 (専門に根ざしながら学際的に学びたい院生/プロジェクト参加型)
2. 専門性重視型 (専門領域を中心に学びたい院生/プロジェクト非参加型)

問10 問6で「3.」「4.」「5.」と回答した方にお伺いします。大学院へ進学しない理由について教えてください (複数回答可)。

1. 研究に興味や関心がない
2. 興味のあるプログラムがない
3. 想定するキャリアにおいて必要がない
4. 希望する就職業種の採用が好調
5. 大学院修了後の進路に不安がある
6. 経済的理由
7. まだ進路を考えていない
8. その他 ( )

問 11 どのような制度・支援策があれば、大学院への進学につながりますか(複数回答可)。

1. 入学金や授業料などの減免制度
2. 1年程度の短期間で修了できる制度
3. 働きながら3年程度の長期間で修了できる制度
4. 負担感の少ない入学者選抜
5. その他 ( )

最後の設問です 大学院再編構想へのご意見・ご要望がありましたら自由に入力してください。

アンケートは以上で終了です。送信ボタンを押してください。ご協力ありがとうございました。

【地域政策科学専攻・経済経営専攻】自治体等職員へのアンケート調査結果（概要）  
（地域産業復興プログラム）

1. 調査実施概要

(1) 調査目的

経済経営専攻に地域政策科学専攻との連携により置く計画の地域産業復興プログラム（公共政策デザイン領域）の今後の志願状況の補足資料とするために、自治体等職員向けのアンケートを実施した。

(2) 調査対象

福島県内自治体や関係する団体において、地域の発展のために従事する社会人を対象とした。（福島県、伊達市、田村市、桑折町：依頼者総数 150 名）

(3) 調査方法

福島大学大学院の再編（改組及び新設）の内容を説明する資料及び調査票を上記調査対象に配付し回答を回収した。

(4) 調査時期

令和3年11月10日（水）～11月30日（火）

(5) 回答数（回答率）

103名（約68.7%）

2. 調査結果概要

Q7. 地域デザイン科学研究科への入学意向

選択肢	回答数	割合
①数年以内に入学したい	0	0.0%
②いずれ入学したい	1	1.0%
③入学を検討してみたい	33	32.0%
④入学したいと思わない	66	64.1%
⑤未回答	3	2.9%
計	103	100.0%

Q8. (Q7で①～③と選択) 入学してみたい専攻

選択肢	回答数	割合
①文化共創専攻	7	7.0%
②地域政策科学専攻	9	9.0%
③経済経営専攻	12	12.0%
④どの専攻が決まっていない	6	6.0%
計	34	34.0%

※Q8の割合は、回答者総数103名に対する割合

## 福島大学大学院「地域デザイン科学研究科」設置に関するアンケート

福島大学地域デザイン科学研究科設置準備室

### (アンケートの趣旨)

日頃より、福島大学の教育研究にご支援いただき、誠にありがとうございます。福島大学では、震災・原発事故から 10 年となる令和 2 年 10 月に「福島大学ミッション 2030」を策定し、「地域と共に 21 世紀的課題に立ち向かう大学」を基本理念として決めました。

そして、21 世紀的課題の先進地域となった福島県において、10 年後、20 年後を見据えた、少子高齢化時代の地方の「新しい社会づくり」に取り組む教育研究機関として再構築するため、**令和 5 年度の大学院再編**を目指して検討を進めてきたところです。

つきましては、より良い大学院に向けた検討の参考とするため、地域のために様々な拠点で活躍されている皆様にご意見を伺いたく、アンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

### (アンケートの取扱い)

アンケートは調査の目的以外に使われることはなく、統計的な処理を施しますので、**個人が特定されることはありません。**

### (アンケートをご回答いただくに当たって)

- ・同封の大学院再編構想をご覧いただいた上で回答をお願いいたします。なお、大学院の再編構想は、検討段階の資料であり、今後変更となる場合がありますのでご了承ください。
- ・回答は、該当する番号を別紙マークシート用紙に記入してください。
- ・なお、以下に示す URL 又は QR コードにアクセスすることで、Web 上で回答することも可能です（その場合は、マークシートへの記入と返送は不要です）。

<https://forms.gle/Q7NKhPdHTid71XEM9>



### (回答期限についてのお願い)

ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、**2021 年 11 月 25 日**までに、下記担当宛郵送又は Web にてご回答くださいますようお願いいたします。

【担当】 福島大学地域デザイン科学研究科設置準備室(経済経営学類支援室内)

〒960-1296 福島県福島市金谷川 1 番地

TEL: 024-548-8353

E- Mail : keizai@adb.fukushima-u.ac.jp

Q1. 以下の領域について、機会があれば学んで見たいと思うものがあれば選んでください（複数選択可）。

- |              |             |         |
|--------------|-------------|---------|
| ① 地方行政・地方政治  | ② 行政学       | ③ 公共政策論 |
| ④ 政治過程論・比較政治 | ⑤ 国際政治      | ⑥ 国際法   |
| ⑦ 地方自治法      | ⑧ 労働・社会保障と法 | ⑨ 憲法    |
| ⑩ 行政法        |             |         |

Q2. 以下の領域について、機会があれば学んで見たいと思うものがあれば選んでください（複数選択可）。

- |                  |            |            |
|------------------|------------|------------|
| ① 民法             | ② 商法       | ③ 会社法      |
| ④ 民事訴訟法          | ⑤ 地域社会と刑事法 | ⑥ 理論社会学    |
| ⑦ 社会と法           | ⑧ 地域社会学    | ⑨ コミュニティ政策 |
| ⑩ メディア・コミュニケーション |            |            |

Q3. 以下の領域について、機会があれば学んで見たいと思うものがあれば選んでください（複数選択可）。

- |           |         |              |
|-----------|---------|--------------|
| ① ジェンダー論  | ② 都市計画論 | ③ 地域環境論      |
| ④ 地域社会と福祉 | ⑤ 社会教育論 | ⑥ 地域史・文化史    |
| ⑦ 地域史料    | ⑧ 考古学   | ⑨ ヨーロッパ・英米文化 |
| ⑩ 言語と文化   |         |              |

Q4. 以下の領域について、機会があれば学んで見たいと思うものがあれば選んでください（複数選択可）。

- |         |         |         |
|---------|---------|---------|
| ① 産業関連論 | ② 環境経済学 | ③ 公共経済学 |
| ④ 行動経済学 | ⑤ ゲーム理論 | ⑥ 財政学   |
| ⑦ 租税政策  | ⑧ 地域経済学 | ⑨ 地域交通論 |
| ⑩ 社会保障論 |         |         |

Q5. 以下の領域について、機会があれば学んで見たいと思うものがあれば選んでください（複数選択可）。

- |                |              |         |
|----------------|--------------|---------|
| ① 会計学          | ② コスト・マネジメント | ③ 財務諸表論 |
| ④ マーケティング      | ⑤ 経営組織論      | ⑥ 競争戦略  |
| ⑦ ビジネス・イノベーション | ⑧ 地域デザイン     | ⑨ 組織行動論 |
| ⑩ ビジネス統計       |              |         |

Q6. 大学院での学習・研究に興味がありますか。

- ① 興味がある                      ② やや興味がある                      ③ どちらとも言えない  
④ あまり興味がない              ⑤ 興味がない

◎ Q7およびQ8については、添付の資料をご覧の上、回答をお願いします。

Q7. 福島大学大学院地域デザイン科学研究科に入学してみたいと思いますか。

- ① 数年以内に入学したい              ② いずれ入学したい  
③ 入学を検討してみたい              ④ 入学したいとは思わない

④を選んだ方はここでアンケートは終了となります。ご協力ありがとうございました。

①～③を選んだ方は次の質問への回答もお願いいたします。

Q8. 福島大学大学院地域デザイン科学研究科のどの専攻に入学してみたいと思いますか。

- ① 文化共創専攻                      ② 地域政策科学専攻  
③ 経済経営専攻                      ④ どの専攻か決まっていない

**【以上です。ご協力ありがとうございました。】**



【経済経営専攻】社会人個人へのアンケート調査結果（概要）  
（ビジネスキャリアプログラム）

## 1. 調査実施概要

## (1) 調査目的

経済経営学専攻の今後の志願者動向の参考資料とするために、民間企業等に勤務する個人へのアンケートを実施した。

## (2) 調査対象

経済学研究科が関係したビジネス関係のセミナーへの参加者 150 名

## (3) 調査方法

福島大学大学院の再編（改組及び新設）の内容を説明する資料及び調査票を上記調査対象に配付し回答を回収した。

## (4) 調査時期

令和3年10月16日（日）～12月11日（土）

## (5) 回答数（回答率）

72名（48.0%）

## 2. 調査結果概要

## Q3. ビジネスキャリアプログラムへの入学意向

選択肢	回答数	割合
①数年以内に入学したい	4	5.6%
②いずれ入学したい	4	5.6%
③入学を検討してみたい	42	58.3%
④入学したいと思わない	22	30.6%
計	72	100.0%

## 福島大学大学院「地域デザイン科学研究科」設置に関するアンケート

### 福島大学地域デザイン科学研究科設置準備室

#### (アンケートの趣旨)

日頃より、福島大学の教育研究にご支援いただき、誠にありがとうございます。福島大学では、震災・原発事故から10年となる令和2年10月に「福島大学ミッション2030」を策定し、「地域と共に21世紀的課題に立ち向かう大学」を基本理念として定めました。

そして、21世紀的課題の先進地域となった福島県において、10年後、20年後を見据えた、少子高齢化時代の地方の「新しい社会づくり」に取り組む教育研究機関として再構築するため、**令和5年度の大学院再編**を目指して検討を進めてきたところです。

つきましては、より良い大学院に向けた検討の参考とするため、社会人の皆様にご意見を伺いたく、アンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

#### (アンケートの取扱い)

アンケートは調査の目的以外に使われることはなく、統計的な処理を施しますので、**個人が特定されることはありません。**

#### (アンケートをご回答いただくに当たって)

- ・ **同封の大学院再編構想をご覧いただいた上で回答**をお願いいたします。なお、大学院の再編構想は、検討段階の資料であり、今後変更となる場合がありますのでご了承ください。
- ・ 回答は、該当する番号を別紙マークシート用紙（表）に記入してください。また、必要に応じて記述欄への記入もお願いいたします。
- ・ なお、以下に示す URL又はQRコードにアクセスすることで、Web上で回答することも可能です（その場合は、マークシートへの記入と返送は不要です）。

#### (回答期限についてのお願い)

ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、**2021年10月25日**までに、下記担当宛郵送又はWebにてご回答くださいますようお願いいたします。

【担当】福島大地域デザイン科学研究科設置準備室

〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地

TEL: 024-548-8353

E-Mail : [keizai@adb.fukushima-u.ac.jp](mailto:keizai@adb.fukushima-u.ac.jp)

Q1. 以下の領域について、機会があれば学んで見たいと思うものがあれば選んでください（複数選択可）。

- |             |              |                |
|-------------|--------------|----------------|
| ① マーケティング   | ② ビジネスマネジメント | ③ 経営組織論        |
| ④ 人的資源管理論   | ⑤ 競争戦略       | ⑥ ビジネス・イノベーション |
| ⑦ キャリア・デザイン | ⑧ 地域デザイン     | ⑨ 組織行動         |
| ⑩ ビジネス統計    |              |                |

Q2. 大学院での学習・研究に興味がありますか。

- |            |           |             |
|------------|-----------|-------------|
| ① 興味がある    | ② やや興味がある | ③ どちらとも言えない |
| ④ あまり興味がない | ⑤ 興味がない   |             |

◎ 次の質問にお答えいただく前に、以下の資料をご覧ください。

福島大学では新しい時代を見据えて、2022年度から大学院の教育内容をリニューアルします。ここでは、その中の、地域デザイン科学研究科・経済経営専攻の中で展開される、ビジネスキャリア・プログラムの概要を紹介します。

#### ビジネスキャリア・プログラム

- ☆ 昇進・異動・転職・職場復帰など、様々なキャリアの節目に備えて経営リテラシーを学びたい方に「大人の学び場」を提供します。
- ☆ 修了に必要なすべての科目が土日昼間に開講されており、土日通学のみで修士（経済学）の学位が取得可能です。
- ☆ 社会人の受講を想定した、コースワーク（体系的な講義履修）主体のカリキュラムです。
- ☆ 3年あるいは4年の長期履修を選択し、時間をかけてじっくりと学ぶことが可能です（長期履修を選択した場合でも授業料は2年分です）。
- ☆ 研究計画書の内容をもとに面接を行った上で可否を決定します。

Q3. 福島大学大学院の「ビジネスキャリア・プログラム」に入学してみたいと思いますか。

- |              |               |
|--------------|---------------|
| ① 数年以内に入学したい | ② いずれ入学したい    |
| ③ 入学を検討してみたい | ④ 入学したいとは思わない |

【以上です。ご協力ありがとうございました。】

【経済経営専攻】税理士事務所へのアンケート調査結果（概要）  
（会計税務プログラム）

1. 調査実施概要

(1) 調査目的

経済経営専攻の今後の志願者動向の参考資料とするために、福島県内の税理士事務所へのアンケートを実施した。

(2) 調査対象

福島県内税理士事務所(計 137 事業所)

(3) 調査方法

福島大学大学院の再編(改組及び新設)の内容を説明する資料及び調査票を上記調査対象に配付し回答を回収した。

(4) 調査時期

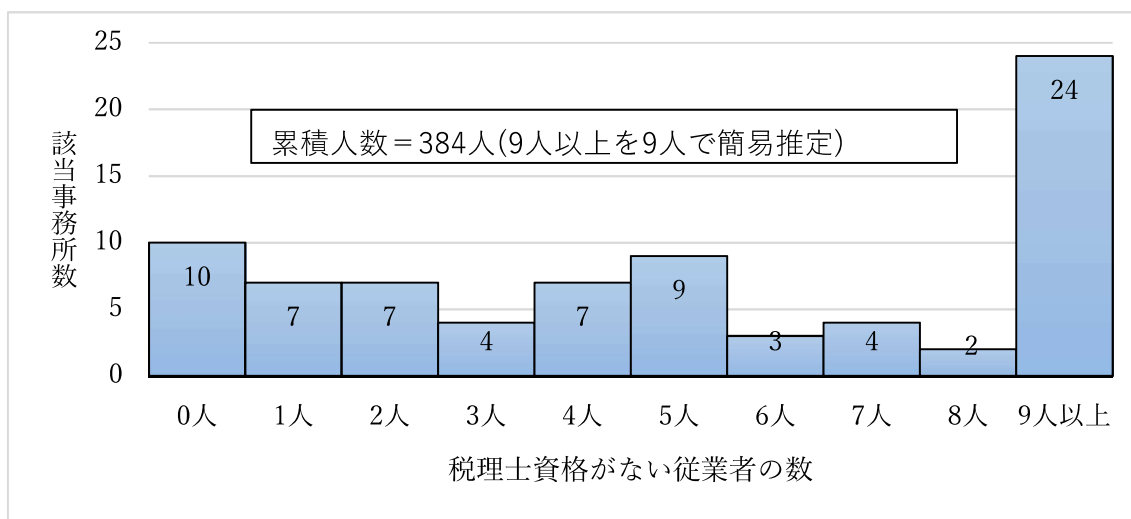
令和3年10月24日(日)～11月18日(木)

(5) 回答数(回答率)

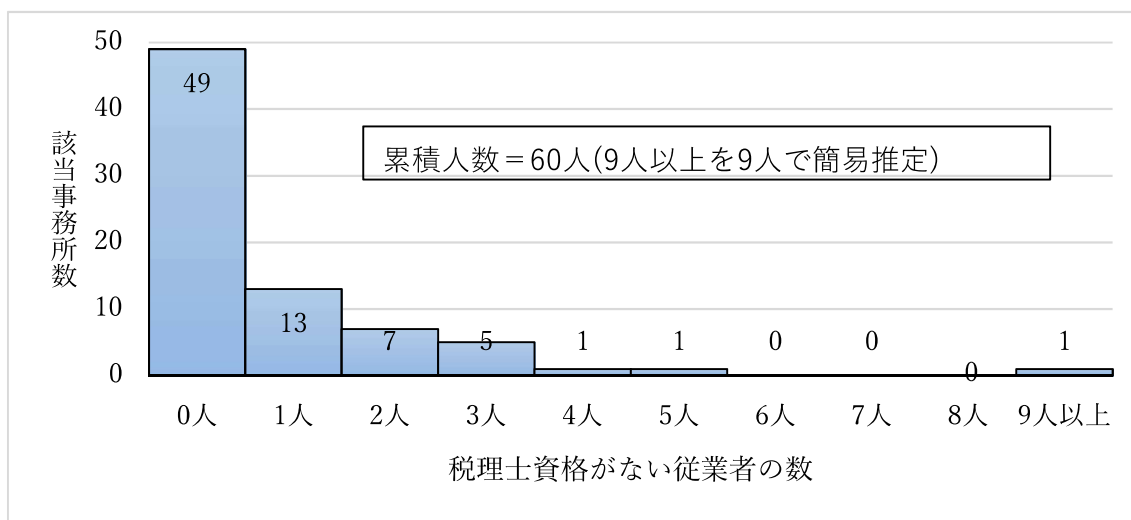
77事業所(約56.2%)

2. 調査結果概要

Q1. 貴事務所の従業者の方の中で、税理士資格を有さない方の人数を教えてください。



Q2. 貴事務所の従業者（税理士資格を有さない方）のうち、このプログラムで学んでみたいと思う方は何人いますか。



## 福島大学大学院「地域デザイン科学研究科」設置に関するアンケート

福島大学地域デザイン科学研究科設置準備室

### (アンケートの趣旨)

日頃より、福島大学の教育研究にご支援いただき、誠にありがとうございます。  
福島大学では、震災・原発事故から10年となる令和2年10月に「福島大学ミッション2030」を策定し、「地域と共に21世紀的課題に立ち向かう大学」を基本理念として定めました。

そして、21世紀的課題の先進地域となった福島県において、10年後、20年後を見据えた、少子高齢化時代の地方の「新しい社会づくり」に取り組む教育研究機関として再構築するため、**令和5年度の大学院再編**を目指して検討を進めてきたところです。つきましては、より良い大学院に向けた検討の参考とするため、貴事務所のご意見を伺いたく、アンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

### (アンケートの取扱い)

アンケートは調査の目的以外に使われることはなく、統計的な処理を施しますので、**個人が特定されることはありません。**

### (アンケートをご回答いただくに当たって)

該当する番号を別紙のマークシート紙に記入してください。

### (回答期限についてのお願い)

ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、**2021年11月18日**までに、下同封の返信用封筒にマークシート紙を封入の上、下記担当宛郵送に送付くださいますようお願いいたします。

【担当】 福島大学地域デザイン科学研究科設置準備室(経済経営学類内)

〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地

TEL: 024-548-8353

E-Mail : keizai@adb.fukushima-u.ac.jp

Q1. 貴事務所の従業者の方の中で、税理士資格を有さない方の人数を教えてください。

- |      |      |        |
|------|------|--------|
| ① 1人 | ② 2人 | ③ 3人   |
| ④ 4人 | ⑤ 5人 | ⑥ 6人   |
| ⑦ 7人 | ⑧ 8人 | ⑨ 9人以上 |
| ⑩ 0人 |      |        |

Q2. 新しく構想している大学院でも、将来の税理士を養成する講座である「会計税務プログラム」を引き続き開講していきませんが、貴事務所の従業者（税理士資格を有さない方）のうち、このプログラムで学んでみたいと思う方は何人いますか。添付の会計税務プログラムの説明資料をご覧になっていただいた上でお答えください。

- |      |      |        |
|------|------|--------|
| ① 1人 | ② 2人 | ③ 3人   |
| ④ 4人 | ⑤ 5人 | ⑥ 6人   |
| ⑦ 7人 | ⑧ 8人 | ⑨ 9人以上 |
| ⑩ 0人 |      |        |

Q3. 先生にお伺いします。以下の専門領域の中で、機会があれば学んでみたいと思うものはありますか。ある場合には、その中から一番学んでみたいと思うものを一つ選んでください。選択肢の中に学んでみたいと思うものがない場合には未記入としてください。

- |             |              |                |
|-------------|--------------|----------------|
| ① マーケティング   | ② ビジネスマネジメント | ③ 経営組織論        |
| ④ 人的資源管理論   | ⑤ 競争戦略       | ⑥ ビジネス・イノベーション |
| ⑦ キャリア・デザイン | ⑧ 地域デザイン     | ⑨ 組織行動         |
| ⑩ ビジネス統計    |              |                |

【以上です。ご協力ありがとうございました。】

【大学院全体】企業・団体等へのアンケート調査結果

1. 調査実施概要

(1) 調査目的

令和5年4月に再編予定の福島大学の大学院に対する社会的ニーズ(派遣、採用)を把握することを目的とする。

(2) 調査対象

本学学生の採用実績等を有する県内外の企業・団体等「373 事業所」を対象とした。

(3) 調査方法

福島大学大学院の再編(改組及び新設)の内容を説明する資料及び調査票を上記調査対象に郵送で送付し、マークシート又は Google フォームにより回答を回収した。

(4) 調査時期

令和3年11月8日(月)～11月19日(金)

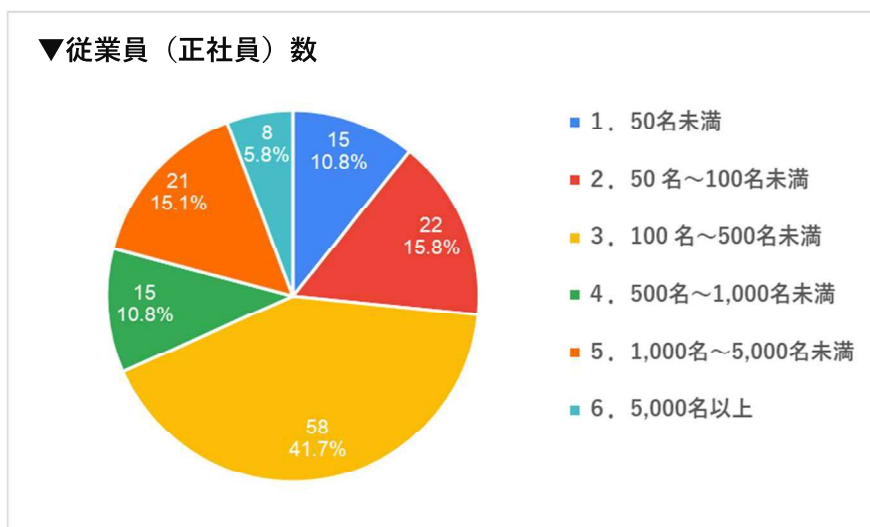
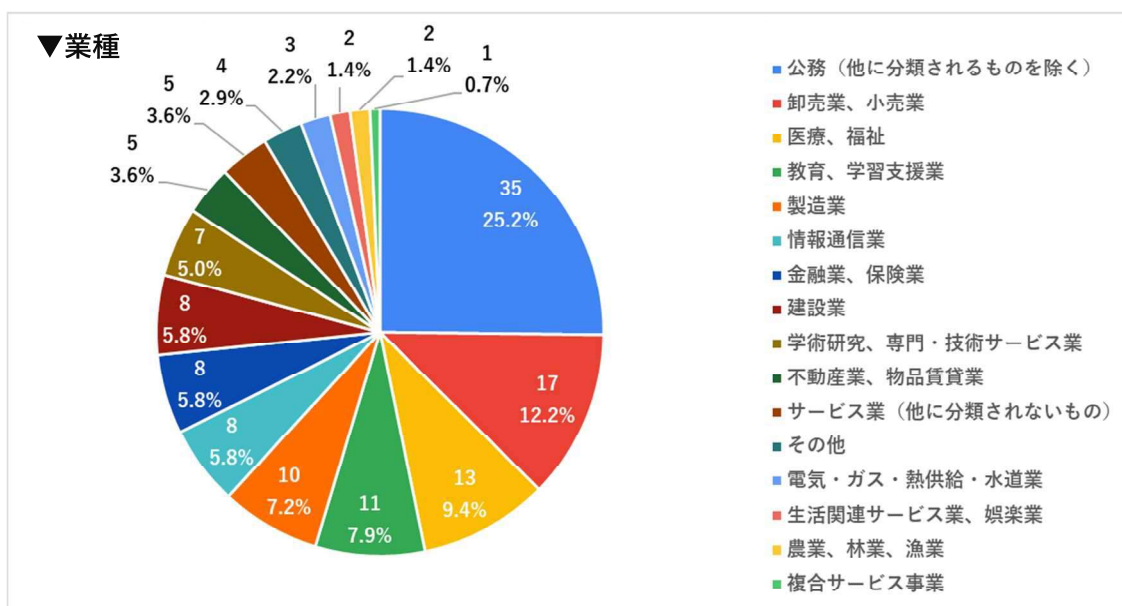
(5) 回答数(回答率)

139 事業所(約 37.3%) ※締切後の到着分を含む。



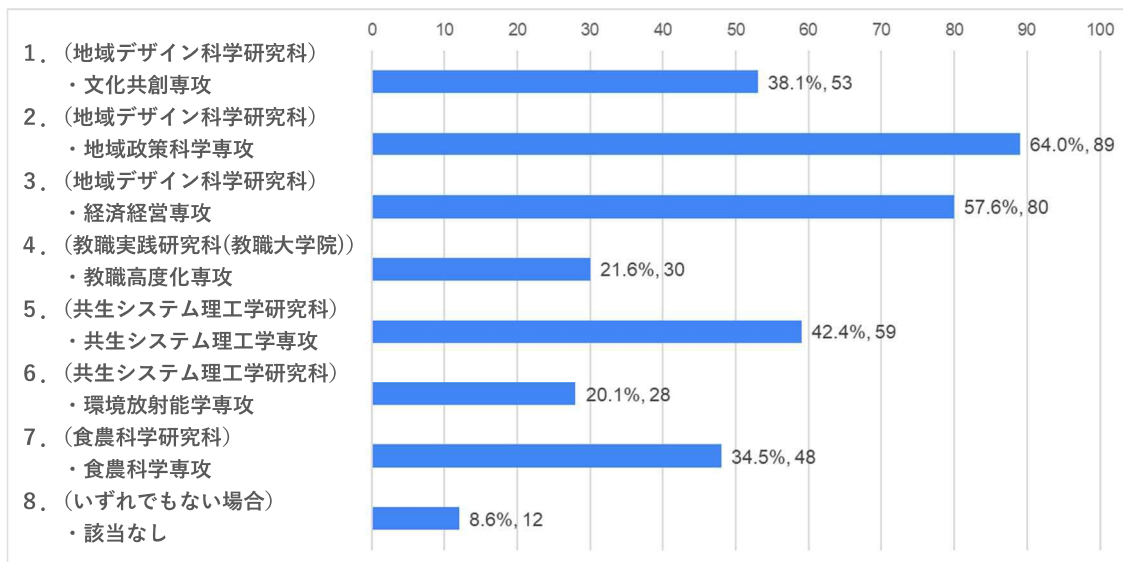
## 2. 調査実結果

### (1) 回答事業所の属性（業種、従業員（正社員）数）について



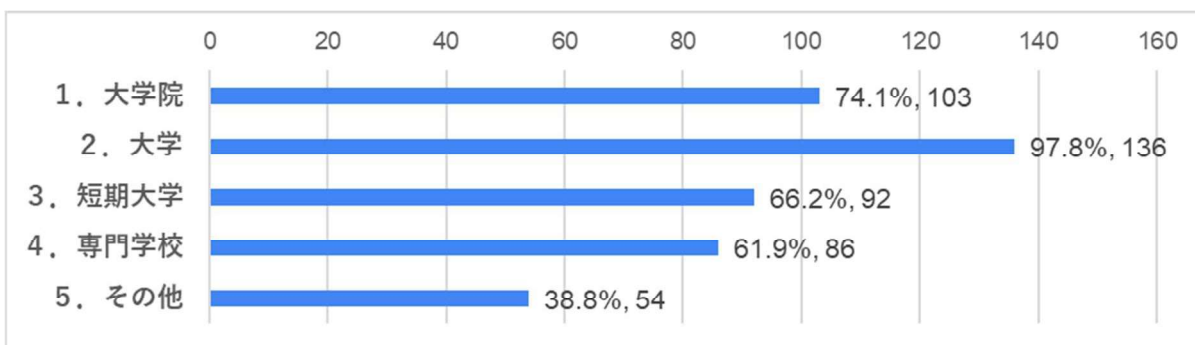
## (2) 新構想大学院（各専攻）への関心について

▼問4 新しくなる福島大学の大学院についてお伺いします。同封の資料をお読みいただき、関心を持った専攻の番号を全て選んでください（複数回答可）。

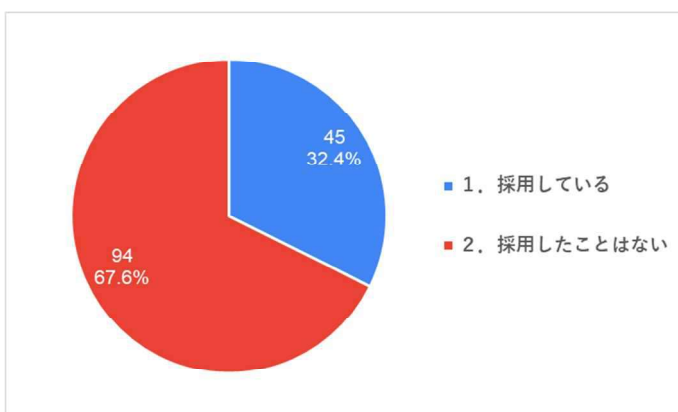


### (3) 新構想大学院修了生の採用について

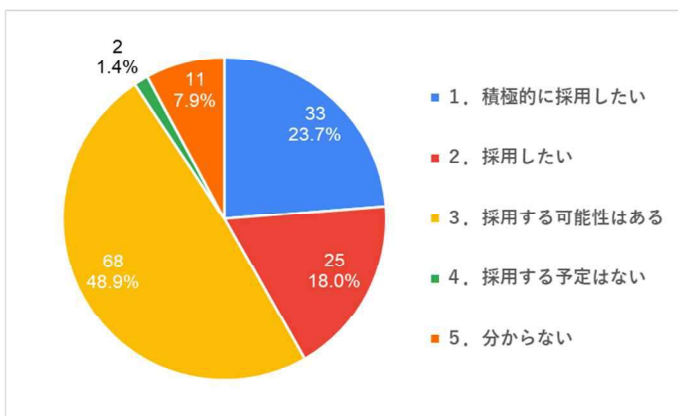
▼問5 貴社・貴団体等の採用計画では、どのような出身学歴（最終学歴）の方を採用することをお考えですか。次の中から「採用対象となる」と思われる番号を全て選んでください（複数回答可）。



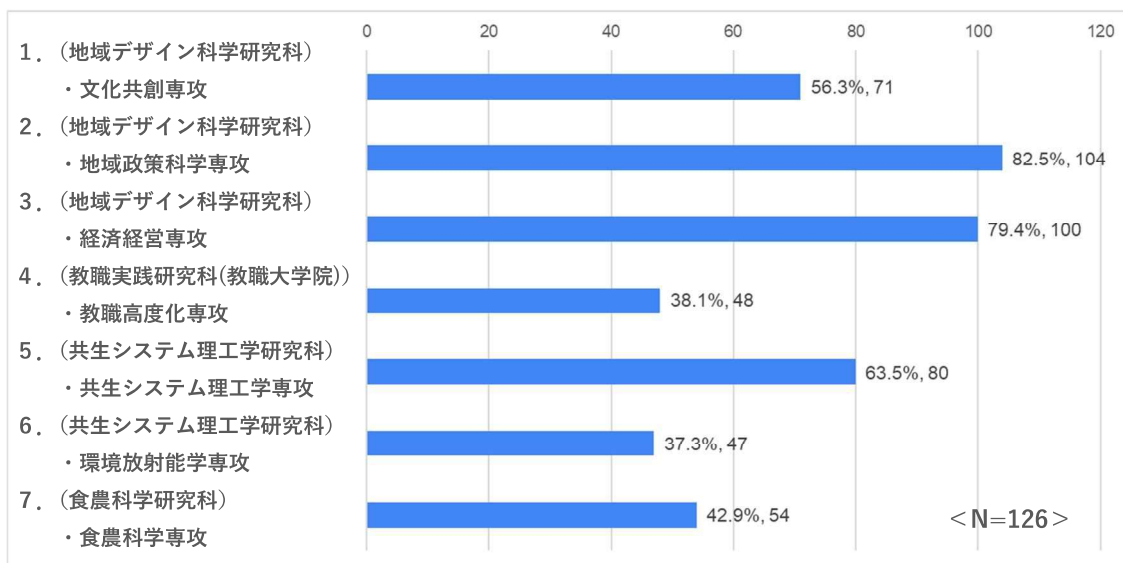
▼問6 貴社・貴団体等では福島大学の大学院修了生を採用していますか。該当する番号を1つ選んでください。



▼問7 新しくなる福島大学大学院を修了した学生の採用意向についてお聞かせください。



▼問8 問7で「1.」「2.」「3.」と回答した方にお伺いします。どの専攻の学生を採用したい、あるいは採用する可能性がありますか（複数回答可）。



(詳細分析)

▼問8において、各専攻を選択した企業・団体等の属性（業種及び従業員（正社員）数）

1. 文化共創専攻

業種/従業員(正社員)数	50名未満	50名～ 100名未満	100名～ 500名未満	500名～ 1,000名未満	1,000名～ 5,000名未満	5,000名以上	総計
公務(他に分類されるものを除く)		3	7	4	4	3	21
卸売業、小売業		1	5	1	1	1	9
教育、学習支援業		1	3		2	1	7
建設業		2	1	1	1		5
金融業、保険業		1	2	1	1		5
医療、福祉	1		1	1	2		5
情報通信業			3	1			4
不動産業、物品賃貸業	1		2		1		4
その他	1	1				1	3
製造業			3				3
生活関連サービス業、娯楽業		1		1			2
サービス業(他に分類されないもの)					2		2
学術研究、専門・技術サービス業			1				1
総計	3	10	28	10	14	6	71

2. 地域政策科学専攻

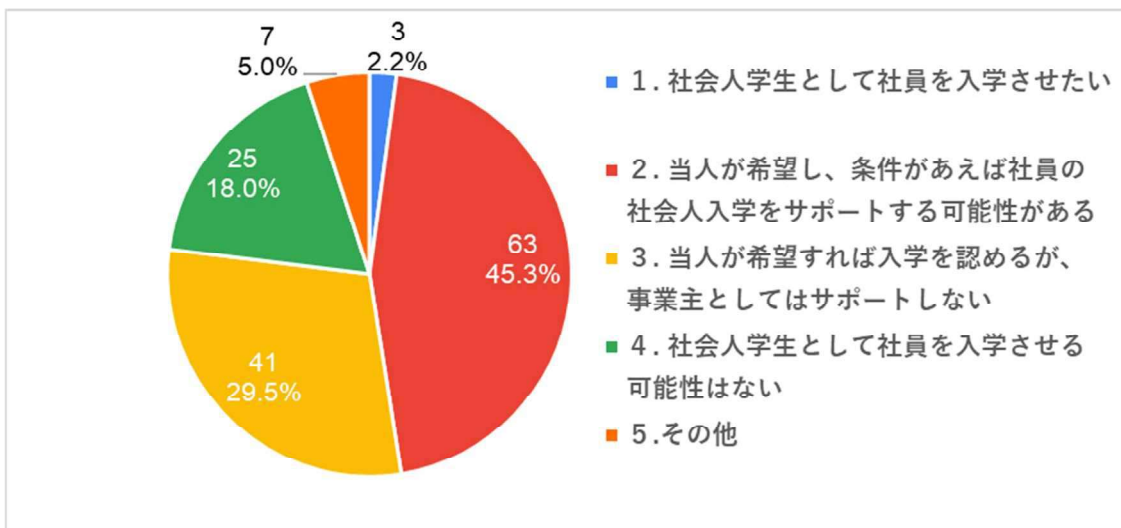
業種/従業員(正社員)数	50名未満	50名～ 100名未満	100名～ 500名未満	500名～ 1,000名未満	1,000名～ 5,000名未満	5,000名以上	総計
公務(他に分類されるものを除く)		5	15	4	5	3	32
卸売業、小売業	1	2	7	1	1	1	13
医療、福祉	2		2	3	3	1	11
教育、学習支援業		1	4		2	1	8
金融業、保険業		3	2	1	1		7
建設業		3	1	1	1		6
情報通信業			4	1			5
不動産業、物品賃貸業	1		1		2		4
その他	2	1				1	4
製造業			3		1		4
学術研究、専門・技術サービス業	1		2				3
生活関連サービス業、娯楽業		1		1			2
サービス業(他に分類されないもの)					2		2
電気・ガス・熱供給・水道業		1	1				2
複合サービス事業			1				1
総計	7	17	43	12	18	7	104

3. 経済経営専攻

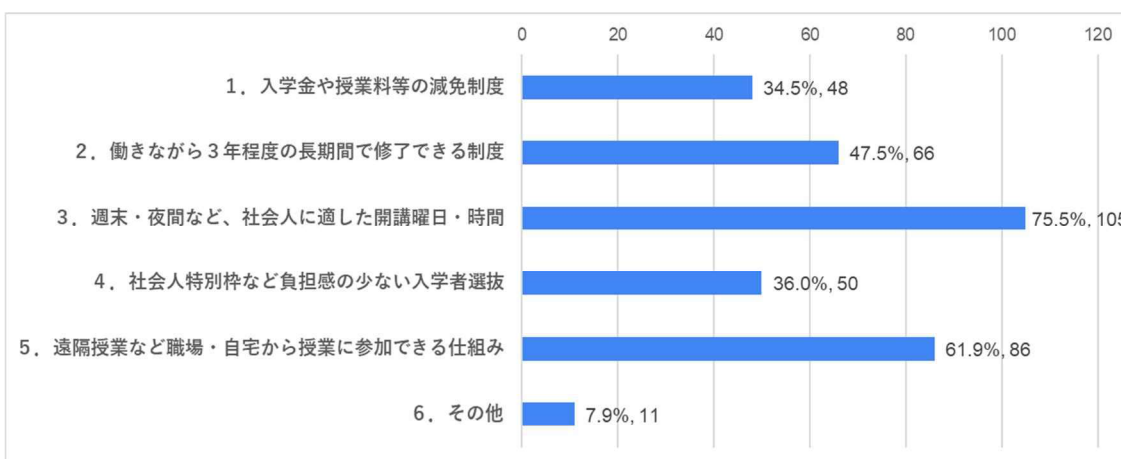
業種/従業員(正社員)数	50名未満	50名～ 100名未満	100名～ 500名未満	500名～ 1,000名未満	1,000名～ 5,000名未満	5,000名以上	総計
公務(他に分類されるものを除く)		4	10	4	4	3	25
卸売業、小売業	1	2	9	1	1	1	15
医療、福祉	1		1	3	3	1	9
教育、学習支援業		2	3		2	1	8
製造業			5		1		6
金融業、保険業		2	2	1	1		6
建設業		2	1	1	1		5
情報通信業			4	1			5
学術研究、専門・技術サービス業	2	1	2				5
不動産業、物品賃貸業	1		1		2		4
その他	1	1				1	3
電気・ガス・熱供給・水道業		1	2				3
生活関連サービス業、娯楽業		1		1			2
サービス業(他に分類されないもの)					2		2
農業、林業、漁業		1					1
複合サービス事業			1				1
総計	6	17	41	12	17	7	100

#### (4) 新構想大学院への社員の入学（派遣）について

▼問9 新しくなる福島大学大学院では、積極的に社会人学生を受け入れたいと検討しています。貴社・貴団体等の社員を社会人学生として入学させることについて、お考えに近い番号を1つ選んでください。



▼問10 貴社・貴団体等の社員が社会人学生として入学する場合、どのような制度・支援策があるとよいですか。当てはまる番号を全て選んでください（複数回答可）。



(詳細分析)

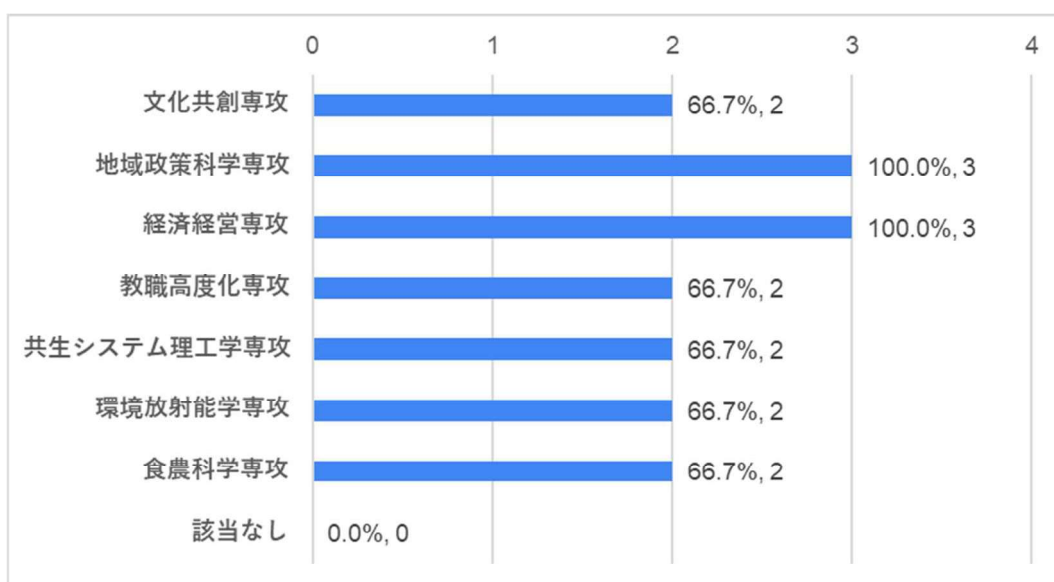
▼問9において「1.」又は「2.」と回答した企業・団体等の①属性（業種及び従業員（正社員）数）と②当該企業・団体等が関心を持っている専攻

### 1. 社会人学生として社員を入学させたい

#### ①業種及び従業員（正社員）数

業種/従業員(正社員)数	50名未満	50名～ 100名未満	100名～ 500名未満	500名～ 1,000名未満	1,000名～ 5,000名未満	5,000名以上	総計
公務(他に分類されるものを除く)					1	1	2
卸売業、小売業					1		1
総計					2	1	3

#### ②上記事業所が関心を持っている専攻

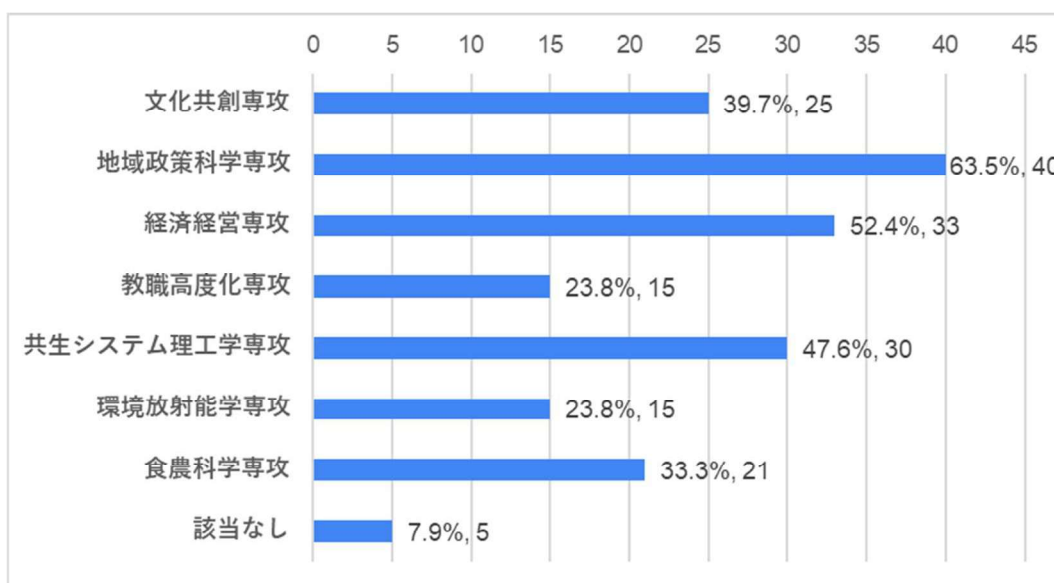


## 2. 当人が希望し、条件があれば社員の社会人入学をサポートする可能性がある

### ①業種及び従業員（正社員）数

業種/従業員（正社員）数	50名未満	50名～ 100名未満	100名～ 500名未満	500名～ 1,000名未満	1,000名～ 5,000名未満	5,000名以上	総計
公務（他に分類されるものを除く）		4	9	3	1	1	18
製造業			5	2			7
教育、学習支援業		1	3		2		6
卸売業、小売業		2	3	1			6
医療、福祉	1		2	1	1		5
情報通信業			5				5
学術研究、専門・技術サービス業	2	1	1				4
金融業、保険業		2	1				3
電気・ガス・熱供給・水道業		1	1				2
建設業		1	1				2
サービス業（他に分類されないもの）			1		1		2
不動産業、物品賃貸業	1						1
その他	1						1
生活関連サービス業、娯楽業		1					1
総計	5	13	32	7	5	1	63

### ②上記事業所が関心を持っている専攻





## (5) 新構想大学院への意見・要望について（自由記述）

▼問 11 大学院再編構想へのご意見・ご要望がありましたら自由に記入してください。

[23 事業所より寄せられた意見・要望をカテゴリ別に整理]

### (大学院全体、組織に関するご意見)

- ・時代にあった研究機関になりますように
- ・福島県の地域課題について専門的に研究し、即戦力として企業に貢献できる人材の育成を希望したい。
- ・将来福島の地で貢献できる人材の育成に期待をしております。
- ・再構築により、更に高度な学びと研究が可能になることや個人の選択肢が増えることで貴大学大学院の質向上が見込めるのではないのでしょうか。就職活動でも大きなアピールポイントになるはずです。
- ・福島の発展のために本当に必要だと思います。福島に本社を置く企業として、また卒業生として誇りに思うとともに産学一体となって発展していくことを応援しております。
- ・学童保育の NPO です。一年生のクラスの半数が学童保育を利用しています。毎日の宿題は、ほぼ学童保育で行われているのが現状です。子どもの行動の要因、背景を理解して子どもと家庭を支援したいと考えたとき、学校生活の情報は、欠かせないと考えますが、その連携は、積極的にとられていません。ぜひ、学童保育の研究も研究課題としていただき、地域の学童保育の質の向上に取り組んでいただきたいと考えます。学校、地域(学童等)、家庭の教育力の向上、そして連携こそが、自立した人間を育てることに繋がるのではないのでしょうか。
- ・アカデミズムには自由と寛容が不可欠です。教員と学生の自由な研究を推進してください。社会的要請等もあるかとは思いますが、慎重にかつ勇気をもって理の発見に取り組んでいていただける組織になってくれることを願います。
- ・地域のあり方、地域再生が大きな課題となる中、専門性、学際性を重視した組織再編は適切だと思います。  
福島県の実情に適った再編と考えます。特に教育実践研究科の充実を図ったのは良かったです。何としても人材育成を図らなければ福島の教育の向上は望めません。
- ・大学院再編に向け、継続的な情報提供をお願いしたい。  
教員免許（特に小学校）を取得しやすくしてほしい。
- ・どの学科もすばらしいと感じます。頑張ってください。
- ・新たな大学院（教育プログラム）によって、将来を見通す幅広い視野と自ら主体的に取り組む実践力を兼ね備えた人材を輩出してくれることを期待しています。

#### (カリキュラムに関するご意見)

- ・イノベーション人材育成の必要性については共感します。育成したい人材に必要な素養、知識、スキルまたカリキュラムなどについては民間企業にも意見を聴取しながら進めていただきたいと思います。
- ・実社会に柔軟に対応できるカリキュラムを組んでいただければと思います。
- ・再構想資料拝見しました。2つの履修パターンがある点がとても魅力的でした。ぜひ弊社に卒業生の方入社して欲しいです。また、私自身も入学したいと思うプログラム内容でした。

#### (リカレント教育に関するご意見)

- ・是非とも社会人枠を広く設定して欲しく思います。いろいろな意味で地域の発展に繋がると考えます。
- ・年齢を問わず、希望する方を積極的に受け入れ、学びに関する環境を構築して行って欲しい。
- ・社会人経験をへて、更に知識を身に付けることに大きな意義があると思います。とても良い試みだと感じます。
- ・短期間で集中的に受講できる社会人向けの講座
- ・貴大学はこれまでも地域に根ざした大学として、地域社会の諸課題解決に向けた研究や活動に取り組み、学部再編や新たな学類創設を行われてきていますが、今回の大学院再編も、そうした積極的な姿勢が感じられるもので大変有意義であると思います。また、社会人でも学びやすい様々な環境整備も考えられており、期待感をもっておりますが、引き続き今後も、学びの意欲がある社会人にとって魅力的な、「ここで学んでみたい」と思える大学院再編を進めて実現していただければと考えます。

#### (その他のご意見)

- ・特にありません。
- ・特にございません。宜しくお願い致します。
- ・いつもお世話になっております。機会がございましたら改めてご挨拶させていただければ幸いです。今後とも何卒よろしく願いいたします。
- ・弊組合における採用については、出身校(学部)枠を設定することはなく、全ての受験者に同条件で均等に機会が与えられます。

令和3年11月

## 福島大学大学院再編に関するアンケート（ご協力をお願い）

国立大学法人福島大学

### （アンケートの趣旨）

日頃より、福島大学の教育研究にご支援いただき、また、学生の就職にご配慮いただき、誠にありがとうございます。

福島大学では、震災・原発事故から10年となる令和2年10月に「福島大学ミッション2030」を策定し、「地域と共に21世紀的課題に立ち向かう大学」を基本理念として定めました。

そして、21世紀的課題の先進地域となった福島県において、10年後、20年後を見据えた、少子高齢化時代の地方の「新しい社会づくり」に取り組む教育研究機関として再構築するため、**令和5年度の大学院再編**を目指して検討を進めてきたところです。

つきましては、より良い大学院に向けた検討の参考とするため、貴社・貴団体等のご意見を伺いたく、**アンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。**

### （アンケートの取扱い）

アンケートは調査の目的以外に使われることはなく、統計的な処理を施しますので、**企業名・団体名が特定されることはありません。**

### （アンケートをご回答いただくに当たって）

- ・同封の大学院再編構想資料をご覧いただいた上で回答をお願いいたします。なお、大学院の再編構想は、検討段階の内容であり、今後変更となる場合がありますのでご了承ください。
- ・回答は、可能であれば人材育成・採用に関わっている方をお願いいたします。
- ・回答は、該当する番号を別紙マークシート用紙に記入してください。また、必要に応じて記述欄への記入もお願いいたします。
- ・なお、以下に示すURL又はQRコードにアクセスすることで、Web上で回答することも可能です（その場合は、マークシートへの記入と返送は不要です）。

【Google フォーム】 <https://forms.gle/RnUmJuBqoDg5wa2Q6>



### （回答期限についてのお願い）

ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、**11月19日までに**、下記担当宛に同封の返信用封筒又はWebにてご回答くださいますようお願いいたします。

【担当】福島大学総務課大学院改革室 担当：熊谷、齋藤  
〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地  
TEL：024-503-1879 FAX：024-548-3180  
E-Mail：daigakuin@adb.fukushima-u.ac.jp

問1 貴社・貴団体等の業種について、該当する番号を1つ選んでください。なお、「1.」から「9.」に該当する業種がない場合は、「10.」を選択の上、問2において、該当する業種を選択してください。

1. 農業、林業、漁業
2. 鉱業、採石業、砂利採取業
3. 建設業
4. 製造業
5. 電気・ガス・熱供給・水道業
6. 情報通信業
7. 運輸業、郵便業
8. 卸売業、小売業
9. 金融業、保険業
10. その他（問2へ）

問2 問1で「10.」と回答した方にお伺いします。貴社・貴団体等の業種について、該当する番号を1つ選んでください。

1. 不動産業、物品賃貸業
2. 学術研究、専門・技術サービス業
3. 宿泊業、飲食サービス業
4. 生活関連サービス業、娯楽業
5. 教育、学習支援業
6. 医療、福祉
7. 複合サービス事業
8. サービス業（他に分類されないもの）
9. 公務（他に分類されるものを除く）
10. その他

問3 貴社・貴団体等の従業員数（正社員数）について、該当する番号を1つ選んでください。

1. 50名未満
2. 50名～100名未満
3. 100名～500名未満
4. 500名～1,000名未満
5. 1,000名～5,000名未満
6. 5,000名以上

問4 新しくなる福島大学の大学院についてお伺いします。同封の資料をお読みいただき、関心を持った専攻の番号を全て選んでください（複数回答可）。

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| (地域デザイン科学研究科)    | 1. 文化共創専攻      |
|                  | 2. 地域政策科学専攻    |
|                  | 3. 経済経営専攻      |
| (教職実践研究科（教職大学院）) | 4. 教職高度化専攻     |
| (共生システム理工学研究科)   | 5. 共生システム理工学専攻 |
|                  | 6. 環境放射能学専攻    |
| (食農科学研究科)        | 7. 食農科学専攻      |
| (いずれでもない場合)      | 8. 該当なし        |

問5 貴社・貴団体等の採用計画では、どのような出身学歴（最終学歴）の方を採用することをお考えですか。次の中から「採用対象となる」と思われる番号を全て選んでください（複数回答可）。

1. 大学院
2. 大学
3. 短期大学
4. 専門学校
5. その他

問6 貴社・貴団体等では福島大学の大学院修了生を採用していますか。該当する番号を1つ選んでください。

1. 採用している
2. 採用したことはない

問7 新しくなる福島大学大学院を修了した学生の採用意向についてお聞かせください。

1. 積極的に採用したい (問8へ)
2. 採用したい (問8へ)
3. 採用する可能性はある (問8へ)
4. 採用する予定はない
5. 分からない

問8 問7で「1.」「2.」「3.」と回答した方にお伺いします。どの専攻の学生を採用したい、あるいは採用する可能性がありますか (複数回答可)。

- |                   |                |
|-------------------|----------------|
| (地域デザイン科学研究科)     | 1. 文化共創専攻      |
|                   | 2. 地域政策科学専攻    |
|                   | 3. 経済経営専攻      |
| (教職実践研究科 (教職大学院)) | 4. 教職高度化専攻     |
| (共生システム理工学研究科)    | 5. 共生システム理工学専攻 |
|                   | 6. 環境放射能学専攻    |
| (食農科学研究科)         | 7. 食農科学専攻      |

問9 新しくなる福島大学大学院では、積極的に社会人学生を受け入れたいと検討しています。貴社・貴団体等の社員を社会人学生として入学させることについて、お考えに近い番号を1つ選んでください。

1. 社会人学生として社員を入学させたい
2. 当人が希望し、条件があえば社員の社会人入学をサポートする可能性がある
3. 当人が希望すれば入学を認めるが、事業主としてはサポートしない
4. 社会人学生として社員を入学させる可能性はない
5. その他

問10 貴社・貴団体等の社員が社会人学生として入学する場合、どのような制度・支援策があるとよいですか。当てはまる番号を全て選んでください (複数回答可)。

1. 入学金や授業料等の減免制度
2. 働きながら3年程度の長期間で修了できる制度
3. 週末・夜間など、社会人に適した開講曜日・時間
4. 社会人特別枠など負担感の少ない入学者選抜
5. 遠隔授業など職場・自宅から授業に参加できる仕組み
6. その他

問 11 大学院再編構想へのご意見・ご要望がありましたら自由に記入してください。

--

アンケートは以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

過去5年間（平成28年度～令和2年度）の就職実績  
 （人間発達文化研究科 地域文化創造専攻及び学校臨床心理専攻）

（単位：名）

進路状況		H28	H29	H30	R1	R2	平均
修了者		32	32	30	32	18	28.8
就職者(a)		22	17	17	22	15	18.6
業種別 就職者内訳	農・漁・鉱業						0.0
	建設業						0.0
	製造業				1	1	0.4
	電気・ガス・水道業						0.0
	情報通信業	1	1	1	1	2	1.2
	運輸業、郵便業						0.0
	卸・小売業		1		2	1	0.8
	金融業						0.0
	保険業	1		1	1		0.6
	不動産業、物品賃貸業						0.0
	宿泊業、飲食サービス業	1		1	1		0.6
	教育・学習支援業	2			1	2	1.0
	医療、福祉	6	4	4	3	2	3.8
	複合サービス業						0.0
	サービス業	2	1	1	1		1.0
	国家公務員					1	0.2
地方公務員	1	4	1	2	2	2.0	
教員	8	6	8	8	4	6.8	
自営業				1		0.2	
進学者			1	1			0.4
その他		10	14	12	10	3	9.8
その他内訳	未定者(b)			2	4		1.2
	公務員等希望者	1	4	1	3	2	2.2
	有職者	6	10	8	3	1	5.6
	その他	3		1			0.8
就職率		100.0%	100.0%	89.5%	84.6%	100.0%	94.8%

【就職率】＝就職者／就職希望者〔就職者(a)＋未定者(b)〕

（単位：名）

地域別就職先		H28	H29	H30	R1	R2
北海道 ・東北	北海道		1			
	福島県	12	8	10	14	9
	岩手県			1		1
	宮城県	2	5	3	3	1
	山形県	1	1	1		
関東	栃木県					1
	茨城県	2				1
	千葉県					1
	東京都	2	2	2	4	
	神奈川県	1			1	
他	新潟県	1				
	山梨県					1
	長野県	1				
合計		22	17	17	22	15
福島県内就職率		54.5%	47.1%	58.8%	63.6%	60.0%

56.8%（平均）

過去5年間（平成28年度～令和2年度）の就職実績（地域政策科学研究科）

（単位：名）

進路状況		H28	H29	H30	R1	R2	平均
修了者		8	7	7	8	6	7.2
就職者(a)			3	4	5	2	2.8
業種別 就職者内訳	農・漁・鉱業						0.0
	建設業						0.0
	製造業				1		0.2
	電気・ガス・水道業						0.0
	情報通信業						0.0
	運輸業、郵便業					1	0.2
	卸・小売業		1		2	1	0.8
	金融業						0.0
	保険業						0.0
	不動産業、物品賃貸業						0.0
	宿泊業、飲食サービス業						0.0
	教育・学習支援業				1		0.2
	医療、福祉						0.0
	複合サービス業						0.0
	サービス業		1	2	1		0.8
	国家公務員						0.0
	地方公務員		1	2			0.6
教員						0.0	
自営業						0.0	
進学者							0.0
その他		8	4	3	3	4	4.4
その他内訳	未定者(b)	2	1				0.6
	公務員等希望者	1				1	0.4
	有職者	2	3	3	2	1	2.2
	その他	3			1	2	1.2
就職率		—	75.0%	100.0%	100.0%	100.0%	93.8%

【就職率】＝就職者／就職希望者〔就職者(a)＋未定者(b)〕

（単位：名）

地域別就職先		H28	H29	H30	R1	R2
北海道 ・東北	福島県		2	3	1	1
	岩手県					
	宮城県			1	1	
	山形県				1	
関東	埼玉県				1	
	東京都		1			1
他	新潟県				1	
合計		—	3	4	5	2
福島県内就職率		—	66.7%	75.0%	20.0%	50.0%

52.9%（平均）



過去5年間（平成28年度～令和2年度）の就職実績（経済学研究科）

（単位：名）

進路状況		H28	H29	H30	R1	R2	平均
修了者		18	17	14	9	9	13.4
就職者(a)		3	3	4		1	2.2
業種別 就職者内訳	農・漁・鉱業			1			0.2
	建設業		1	1			0.4
	製造業						0.0
	電気・ガス・水道業						0.0
	情報通信業	1					0.2
	運輸業、郵便業			1			0.2
	卸・小売業	1					0.2
	金融業						0.0
	保険業						0.0
	不動産業、物品賃貸業						0.0
	宿泊業、飲食サービス業						0.0
	教育・学習支援業						0.0
	医療、福祉						0.0
	複合サービス業						0.0
	サービス業		1	1		1	0.6
	国家公務員						0.0
	地方公務員			1			0.2
教員						0.0	
自営業	1					0.2	
進学者		2				1	0.6
その他		13	14	10	9	7	10.6
その他内訳	未定者(b)				1	1	0.4
	公務員等希望者						0.0
	有職者	10	12	8	7	6	8.6
	その他	3	2	2	1		1.6
就職率		100.0%	100.0%	100.0%	—	50.0%	87.5%

【就職率】＝就職者／就職希望者〔就職者(a)＋未定者(b)〕

（単位：名）

地域別就職先		H28	H29	H30	R1	R2
北海道 ・東北	北海道					
	福島県	1	2	1		
	岩手県	1				
	宮城県	1		1		
関東	千葉県		1			
	埼玉県			1		
	東京都			1		1
合計		3	3	4	—	1
福島県内就職率		33.3%	66.7%	25.0%	—	0.0%

31.3%（平均）

令和5年4月に向けて設置構想中

# 福島大学 大学院が 変わる。



地域および世界の  
「21世紀的課題」に取り組み  
イノベーション人材の育成

## Point ① コンセプト

「新しい社会のあり方を探求し、豊かで希望に満ちた新しいlife(生命、人生、生活)を創造」をコンセプトに、地域および世界の「21世紀的課題」に取り組むイノベーション人材を育成します。

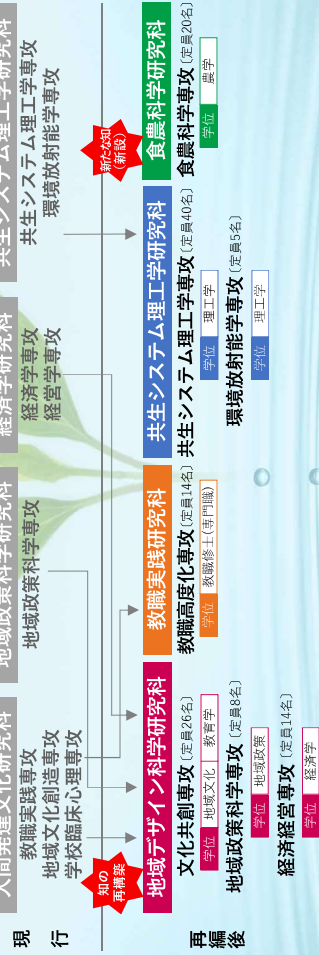
## Point ② 組織再編

人文社会科学系の「知」を再構築するとともに、農学系の新たな「知」を融合させ、中核的学術拠点として、地域と共に21世紀的課題に立ち向かい、「新しい社会づくり」を先導します。

## Point ③ 教育プログラム

2つの履修パターン(学際性重視型、専門性重視型)を設定し、「専門知」の深化と「総合知」を高める実践的な教育プログラムを導入します。

## 組織構成



## 入学科・授業料

(令和3年度4月現在)

入学科	授業料(年間)
282,000円	535,800円

## アクセス

- 電車** 「福島駅」よりJR東北本線(約10分)「金谷川駅」下車(徒歩10分)
- バス** 「福島駅東口」5番ポールから「医大経由二本松行き」に乗車「福島大学」下車(所要時間約30分)



# 研究科・専攻のミッション 養成するイノベーション人材像

## 地域デザイン科学研究科

人文社会科学の学びを通じて豊かな地域社会をデザインする

人文科学および社会科学の高度かつ体系的な学びを通じて、多様な人びとと協働しながら、豊かな地域社会をデザインしていく。人間・文化・地域政策・コミュニティ形成・経済・経営に係る3つの専攻を置き、それぞれの基礎となる理論と地域社会における実践とを融合することで、新たな知を創造し、21世紀的諸課題に実践的に取り組む高度専門職人を養成する。

## 文化共創専攻

人間科学の探究と融合で人間の全人的なあり方をデザインする

▶ **養成するイノベーション人材像**

- ・地域の文化・社会を俯瞰的・多角的にとらえ、自ら課題を発見し、多様なステークホルダーとの関係の中で、その解決を先導できる人材
- ・諸文化に新しい価値を創造・付加し、文化的に豊かな地域創成に貢献できる人材
- ・高度な専門的知識と研究力、実践力を有し、個人あるいは地域が抱える諸課題の解決に具体的にアプロアチできる人材

## 地域政策科学専攻

地域に引き合い自治やコミュニティのあり方を再デザインする

▶ **養成するイノベーション人材像**

- ・歴史的形成されてきた地域のアイデンティティと多様性を尊重しながら、地域社会の諸課題に取り組み、自治やコミュニティのあり方を再デザインしていく。そのために必要な学問的知見や人間的な視点を集約し、法・行政・社会、文化等の複合的な視点に立ち、地域の諸課題を解決に導く力を持つ市民や高度専門職人を養成する。

## 経済経営専攻

グローバルな視点で持続可能な地域経済・経営のあり方をデザインする

▶ **養成するイノベーション人材像**

- ・経済学、経営学などの諸理論や実態認識を深化させると同時に、地域経済・経営に対する実践的な政策・戦略を提示し、持続可能な地域経済・経営のあり方をデザインしていく。グローバルな視点から、地域経済・経営の抱える諸課題を理論的・実証的に把握し、その解決策を示すなど、創造的・革新的な素養をもった高度専門職人を養成する。

## 教職実践研究科

教職高度化専攻

▶ **養成するイノベーション人材像**

- ・Society5.0時代を推進する学校Ver.3を実現するために、時代の変化や自ららのキャリアステーションに応じた資能力を生徒にわたって高め、情報・選択し活用する能力等を高めることにも、東日本大震災・原発事故以降、大きく変容した地域を有する福島の学校において、子ども連を「自立した人間」「グローバル・リーダー」へと育てることができ、高度専門職人を養成する。

※グローバル・リーダー  
…世界の課題を認識し、つづ、それを地域で実現するリーダー

内容や名称は設置構想中のものであり、今後変更となる場合があります。

内容や名称は設置構想中のものであり、今後変更となる場合があります。



# 研究科・専攻のミッション 養成するイノベーション人材像

## 共生システム理工学研究科

共生のシステム理工学研究科 共生のシステム科学の下、理学と工学で21世紀的課題を解決する  
理学と工学の高度な専門性に加え、地球規模の視野と多元的な視点を持つ「共生のシステム科学」という枠組みの中で、21世紀的諸課題の解決に向けた教育と研究を行う。系統的に物事を思考し、分野横断的にシステムを俯瞰しつつ、実現可能な解決方法を見出すことのできる高度専門職業人・研究者を養成する。

## 共生システム理工学専攻

高度な専門的教育・研究で共生の新たなシステム科学を構築する

◆ **ミッション**

- ◆ **養成するイノベーション人材像**
  - ・理論と実践の両側面の視野を備え、高度デジタル社会に適応できる人材
  - ・社会に役立つ新たな「技術」や「システム」の創出を担うことのできる人材
  - ・環境負荷の少ない新しい新たな物質の創製、省エネルギー・省資源に資する製法の開発、活用を実現できる人材
  - ・自然と人間との共生や安全、安心な生活の確保に貢献できる技術や実践力を有する人材

◆ **ミッジョン**

- ・数理・情報システム分野、物理・メカトロニクス分野、情報システム分野、エネルギー分野、生命・環境分野における**高度な専門的教育・研究**に取り組む。
- ・高度デジタル社会への対応、人工環境技術と産業の創出、カーボンニュートラルの実現、自然環境・災害・温暖化への対応について、人・産業・環境における**共生の新たなシステム科学**の構築を志し、地域に貢献できる実践的な力を有する**高度専門職業人・研究者**を養成する。

## 環境放射能学専攻

### 放射性核種の環境中の動態を説明する

◆ **ミッション**

- ◆ **養成するイノベーション人材像**
  - ・人工および天然放射性核種の計測、モニタリング、評価、予測、制御などに中長期的視点と異分野協働のもと俯瞰的に対応できる人材
  - ・環境放射能の自然環境への影響と予測、物質循環を多面的に促したモニタリングと環境管理を担う人材
  - ・環境放射能による生物への放射線影響のメカニズムを説明し、分子と生物との関係性に関する深い専門知識と倫理観を身につけて、環境放射能に関する深い専門知識と倫理観を国内外で実施できる人材

◆ **ミッジョン**

- ・地球科学および生態学など関連する学術分野を専門的に学び、**放射性核種の環境中の動態を説明し**、現象の把握やモデリングなどに取り組む。これらを通じて、環境防護、予測評価、環境修復、廃炉、中間貯蔵、浄化などの分野への貢献、物質循環や生物学分野の発展に寄与する**高度専門職業人・研究者**を養成する。

## 食農科学研究科

### 食農科学専攻

### 食農科学の専門性と学際性で地域課題を解決する

◆ **ミッション**

- ◆ **養成するイノベーション人材像**
  - ・食農科学専攻の高度な専門性に基づき社会の課題解決を行う人材
  - ・農場から食卓までのフードチェーンを学際的視野で俯瞰的に捉え、コミュニケーション能力によって分野の壁を越えて新分野を開拓する人材
  - ・高度な分析力により農林水産業と食料・食品関連産業を核として地域社会を創造する人材
  - ・農と食にかかわる地球環境問題の解決のためにグローバルとローカルをつなぐ人材

◆ **ミッジョン**

- ・農林水産業は自然環境を基盤とし、食料・食品関連産業とともに**持続可能な食**を人々に供給する使命を持つ。そこで、**農林水産業と食料・食品関連産業の発展に貢献する科学技術や社会システム**について基礎研究と応用理論の構築を行うとともに、食農科学各分野の専門性を活かして同時に学際性志向も兼ね、地域の課題を抽出して解決する力と国際的な地域課題にも対応できる力を持つ**高度専門職業人・研究者**を養成する。

## 働きながら学びたい方へ

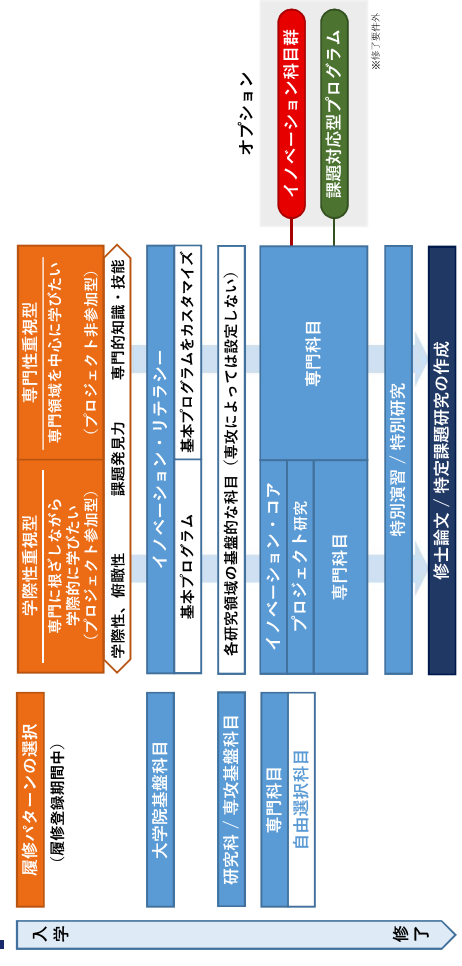
- 大学院（修士課程、博士前期課程、教職大学院）の**標準修業年限は「2年」**です。
- 福島大学大学院では、**職業を有している等の事情（主婦・主夫等）として家事労働に従事していること（含む）**により、時間の制約のある学生のために、**標準修業年限を超えて、3年または4年計画で修業できる「長期履修制度」**があります。
- 長期履修が認められた場合は、**授業料総額はそのまま**で、認められた長期履修期間に応じて分割した額の授業料を各年度に支払うこととなります。
- このほか、専攻によっては、**昼夜開講制**や**土日集中開講**を導入するなど、社会人が学びやすい環境づくりに取り組んでいます。

内容や名称は設置構想中のものであり、今後変更となる場合があります。



# 教育プログラムの概要 学びの方向性に応じたイノベーション人材の育成

## 履修イメージ



## 教育プログラムの紹介

### 履修パターンの選択

- 新しい福島大学大学院では、これまでの**専門的知識を深める2つの履修パターン**を「学際性重視型」「専門性重視型」の2つに分類し、それぞれに重点を置いた学びができるよう教育プログラムを一新しています。
- 自身の強み・キャリアプログラムと興味・関心に合わせて、**専門をより一層深める**ことができます。

### 研究科/専攻基礎科目

- 専門性の幅を広げて一層深めたいために、各研究領域に合わせた**基礎的な科目を、研究科/専攻ごとに必要に応じて設定**しています。
- 地域デザイン科学研究科では、「**地域デザイン関連科目**」を履修する学生に、「**多文化共生関連科目**」を設定することを講義しています。
- 専門をより重視する専攻では、**あえて設定せずに専門科目を充実させる**場合もあります。

### プロジェクト研究

- 「**学際性重視型**」を選択した学生は**必修**として履修します。
- **異なる分野・立場の人と協働**したプロジェクトに取り組むことで、**実践力・学際性・俯瞰性、トランスファラブルスキル**を身に付けます。
- **3セメスターの期間**におおたって、さまざまな**テーマ**から**リーダー**と連携し、**課題設定から課題解決まで**取り組みます。

### 課題対応型プログラム

- 地域や社会が抱えるさまざまな課題に対応して、**テーマごと**に組み合わせて、**必要な科目 (4科目8単位以上)**を履修することによって、**体系的な学びを支援するための仕組み**です。
- 「**分野横断型**」と「**専門高度化**」に大別され、プログラムは**社会や時代のニーズ**に応じて柔軟に組み替えます。
- プログラム修了者には**修了証**を発行します (履修は任意)。

### 大学院基礎科目 (イノベーション・リテラシー)

- イノベーションの必要不可欠な**思考力**を身に付け、イノベーションに必要な**素養**を身に付けます。
- 大学院生全員が履修し、**異分野間の交流**を図ります。
- **学際性重視型**では、「**学際性重視型**」では、各研究科・専攻の特性や分野に応じて、**基本プログラムをカスタマイズ**して、養成するイノベーション人材像の土台を作ります。

### イノベーション科目群

- 専門科目のうち、イノベーションスキルアップに資する**科目**を「イノベーション科目」として指定します。
- **オンラインコミュニケーション**や**プログラミング**、**データサイエンス**などの科目を構想しており、**研究科の枠を超えた履修**を可能とする予定です。
- **高度化する課題**の解決に役立つ**トランスファラブルスキル**を身に付けるための**道しるべ**となります。

### (プロジェクト研究) 学生組織型と教員組織型

- **学生組織型**は、**文理融合**のチームを編成し、「**学際的視点**」で**社会課題の解決**を目指す「**プロジェクト**」を立ち上げます。
- **全チーム**に**研究費**を配分し、**審査**により特許を支援される**プロジェクト**には、**研究費**を補償配分して活動を支援します。
- **教員組織型**は、**福島大学**が取り組んできた**特色あるプロジェクト**や、**地域課題**の解決に役立つ**課題**の解決に向けたプロジェクトに取り組めます。

### (課題対応型プログラム) 分野横断型と専門高度化

- **分野横断型**では、**複雑化する21世紀的課題**の解決に向けて、**分野の枠にとらわれない幅広い知識**を修得するために必要な**科目**をパッケージ化しています。
- **専門高度化**では、**地域や社会**が求める**専門人材**として、**特定領域の高度な知識**を修得するために必要な**科目**をパッケージ化しています。
- **ビジネスキャリア**、**アグロエコロジ**などを構想中です。

内容や名称は設置構想中のものであり、今後変更となる場合があります。





# 福島大学大学院



## Q1. 大学院とは、どのようなところですか？

A1. 学士課程を終えて、さらに研究を深めるために学ぶところで、修士課程（2年）、博士課程（3年）及び専門職学位課程（2年又は3年）があります。一般的には、**研究指導教員の元で専門的な研究を進め、学位論文にまとめます。**全国で約16万2千人が修士課程で学び、約7万5千人が博士課程で学んでいます（令和3年度学校基本調査（速報値））。

## Q2. 大学院に進むと、どのようなメリットがありますか？

A2. メリットは、何よりも**自分の追求したいテーマで自由に研究ができる**ことです。何事にも縛られず、好きなことができる時間と空間は何物にも代えがたい貴重なものです。ゼミ活動やフィールドワーク、研究活動が中心になりますので、**社会では必須とされる論理的思考力やプレゼンテーション能力を確実に身につけることができます。**

## Q3. 大学院を修了すると、どのような分野・職種に就職できますか？

A3. 研究者を目指す方には大学院への進学をおすすめします。そのほかの就職先としては、**文系理系を問わず、民間企業のほか国や自治体の各種機関はもちろんのこと、専門知識を生かした職種（理系であれば技術職や研究職）など就職の選択肢が広がります。**また、**教職であれば専修免許状を取得できる**など、大学院ならではの資格取得もあります。

## Q4. 福島大学大学院の特徴は、どのようなことですか？

A4. これまでに福島大学大学院では、**修士生約2千4百人を送り出してきました。**学士課程からそのまま進学する方、**社会人になってから入学する方、他大学から入学する方など、多様なニーズに合ったカリキュラムを提供してきました。**福島大学は小規模の地方大学ですが、**多くの高度専門職業人を育て、大学の研究者も育てています**（現学長も福島大学大学院を修了した一人です）。

## Q5. 福島大学大学院がリニューアルされるということですが、どのように新しくなるのですか？

A5. **東日本大震災を経験して、また、現在の激しい社会の変化の中**にあって、大学院も変わらなければなりませんと考えました。社会の動きに「対応」するのではなく、**主体的に社会を「変えていく」人材育成に舵を切ります。**今日の複雑で先行きの読めない社会では、**大学院レベルの知識や技術を持った「イノベーション人材」が必要とされている**のです。

## Q6. 「イノベーション人材」とは、どのような人を指すのですか？

A6. デジタル革命に象徴されるように、**現在世界で技術革新が進んでいます。これまでのあり方を見直し、新機軸を提案できる人を「イノベーション人材」と呼んでいます**ますが、イノベーションはスマートフォンや自動運転などの世界を変えてしまうレベルから、目の前の生活を改善していくレベルまで、**あらゆるレベルが必要とされています。重要なのは事実に基づいた確かな問題意識をもち、それを克服しようとする熱意**です。特に日本では、海外に比べてこの種の人材育成が遅れていると言われています。

## Q7. 新しい大学院の組織は、どのように変わりますか？

A7. これまでは学類ごとに大学院（研究科）を置いていましたが、**新しい大学院では、人間発達文化研究科、地域政策科学研究科、経済学研究科が一つにまとまり「地域デザイン科学研究科」となります。**人間発達文化科学研究科の一事攻だった**教職実践研究科**に、また、**食農学類には新しく「食農科学研究科」を置く**予定です。「共生システム理工学研究科」も含めて、**大学院全体で「イノベーション人材」の養成に取り組み**ます。

## Q8. 新しい大学院では、どのような学びが展開されますか？

A8. 大学院での学びの基本は「専門性を深める」ことにありますが、これからは、「**俯瞰性・学際性**」や「**課題解決力**」「**コミュニケーション能力**」なども求められます。新しい大学院では、「**学際性重視**」型と「**専門性重視**」の2つの履修パターンを用意しました。大学院基盤科目「**イノベーション・リテラシー**」を学び、「**プロジェクト研究**」や「**課題対応型プログラム**」などを組み合わせて学ぶことによって、**自分のニーズや興味・関心に合わせた学びを展開**することができます。

## Q9. 大学院では、どのように研究を進めるのですか？

A9. 研究科や専門領域によって多少異なりますが、**一般的な修士課程は2年間で30単位以上を修得し、完成した学位論文が審査で合格すれば学位（修士）が与えられます。**その間、**授業の他に、フィールドに出たりサーチャを行ったり、学会で研究成果を発表したりします。**大学院生の**コミュニティ**があり、**就職なども含めた研究以外の様々な情報も飛び交います。**

## Q10. 地域デザイン科学研究科では、どのようなことが学べますか？

A10. **人文系・社会系の3研究科が統合して、「地域デザイン科学研究科」が誕生**します。「**人間・文化**」「**地域政策・コミュニティ形成**」「**経済・経営**」という3つの領域において、**アカデミックな研究と地域社会における実践を融合**することによって、**新たな知を創造し、豊かな地域社会をデザイン**していきます。

## Q11. 教職実践研究科では、どのようなことが学べますか？

A11. 専門職を養成する大学院として、**独立した研究科に生まれ変わります。**福島県の教育を牽引できる**ミドル・リーダーを養成**することを目的に、**現職の教員と学部から進学した学生がともに、学校現場での実習と議論を積み重ね、ICTなども含めたこれからの時代に必要な教育を開拓**していきます。

## Q12. 共生システム理工学研究科では、どのようなことが学べますか？

A12. **理学と工学の高度な専門性に加え、人・産業一環境における共生の新たなシステム科学を構築し、21世紀的諸課題の解決**を目指します。カーボンニュートラルや福島としては不可避の**環境放射能の問題、ICTや環境問題など、現代的な課題にも取り組みながら技術者・研究者を育て**ていきます。

## Q13. 食農科学研究科では、どのようなことが学べますか？

A13. 令和元年に誕生した**食農学類は、福島県の農林水産業と食料・食品関連産業を発展**させるという**重大な使命**を担っています。食農科学研究科では、**学類の4つのコースの学びを継承・発展**させるとともに、**グローバルエコロジ、農業アントレプレナー**という**大学院独自の先端プログラムを展開**していきます。

## Q14. 大学院に進学したいのですが、どのような準備が必要ですか？

A14. まず、**大学院内や学生募集要項で、自分が進みたい大学院のどの研究室を目指すか**を考えます。自分の問題意識ややりたいことを受入れ入れてもらえるかどうか、**複数の教員に相談**しましょう。また、**大学院問題意識や研究については、身近にいる先輩の大学院生にも直接話を聞いて**おきましょう。具体的な準備は**研究科によって異なりますので、各研究科主催の大学院説明会に参加**したり、ゼミや卒論指導の教員からも話を聞いてもらって、**情報を幅広く収集**することが大切です。入試課で**過去問をチェック**することも忘れずに。

## Q15. 大学院で必要な経費は、どのくらいですか？

A15. **入学金282,000円と授業料535,800円は、学士課程と変わりません。**フィールドワークや学会発表などの**参加費や移動費が必要な場合**もあります。希望があれば、**有償で学類生の学修を手伝ったり（ティーチング・アシスタント）、奨学金などのアルバイト**をしたりすることもできます。条件さえ合えば、**奨学金や入学金・授業料の免除**を利用することもできます。

新大学院に関する内容は、設置構想中のものであり、今後変更となる場合があります。

新大学院に関する内容は、設置構想中のものであり、今後変更となる場合があります。